

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

報告事項件名

頁

(教育指導部)

(1) 令和6年度足立区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について …	2
(2) 令和8年度Chromebook更新に向けた仕様検討について……………	5
(3) 授業支援システムの全校導入について……………	8
(4) SSR (不登校未然防止の為にスモール・ステップ・ルーム) 空間創造委託に係る簡易公募型プロポーザル方式による事業者の特定結果について…	1 1
(5) 令和6年度スモール・ステップ・ルーム (SSR) 設置中学校における第2回生徒アンケート及び教員アンケートについて…	1 4
(6) 「令和6年度第2回学校生活及びいじめに関するアンケート調査」報告について…	2 4
(7) 第7回足立区「図書館を使った調べる学習コンクール」について……………	2 9
(8) 令和7年度特別支援学級の応募結果及び増学級等について……………	3 1
(9) チャレンジ学級・あすテップのオンライン配信授業の終了について……………	3 3
(10) フリースクール等実態調査の結果について……………	3 5
(11) オンライン支援事業「room-K」の事業効果について……………	3 8
(12) 「登校渋り」の把握について……………	4 0

(学校運営部)

(13) 学校施設個別計画の今後の改訂方針について……………	4 2
(14) 暑さ対策アンケート結果の報告について……………	4 4
(15) 東綾瀬小学校隣接用地の購入について……………	4 7
(16) 興本小学校隣接都住創出用地の購入について……………	4 9
(17) 【追加】区内小学校体育館における床板剥離による負傷事故および対応経過報告について…	5 1
(18) 【追加】中川小学校における天井一部落下事故の対応経過報告について……………	5 3
(19) 新田学園外壁改修工事における騒音規制法の届出漏れについて……………	5 5
(20) 足立区給付型奨学金の採用候補者の決定について……………	5 6
(21) 保健関係書類のオンライン化について……………	5 8
(22) 【追加】放課後子ども教室参加児童の保険加入について……………	5 9

(子ども家庭部)

なし

(教 育 委 員 会)

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	令和6年度足立区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について																														
所管部課名	教育指導部教育政策課																														
内容	令和6年度足立区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）について、別添資料1のとおり報告書がまとまったので、報告する。																														
	1 点検・評価の概要																														
	(1) 評価対象 今年度は、以下2施策が評価対象																														
	<table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>		R4	R5	R6	R7	施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援	○	○			施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み		○	○		施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実		○		○	施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	○	○			施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援		○	○	
		R4	R5	R6	R7																										
	施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援	○	○																												
	施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み		○	○																											
	施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実		○		○																										
	施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	○	○																												
	施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援		○	○																											
(2) 実施時期：令和6年4月から8月にかけて評価を実施																															
(3) 評価方法																															
ア 自己評価 各所管は、戦略毎に成果指標及び活動指標の達成状況や課題の分析、今後の方向性について自己評価を行った。																															
イ 外部評価 点検・評価委員は、各所管による自己評価やヒアリングを通して、戦略毎に、観点別評価（4つの観点について7段階）及びこれに基づく全体評価（AからEまでの7段階）を行った。																															
(4) 令和6年度点検・評価委員																															
① 学校教育等 石塚 等（横浜国立大学 教職大学院 教授） ② 就学前教育等 齊藤 多江子（日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授）																															
2 計画の進捗状況																															
「目標通りできた」（達成度 100%以上）となった成果指標は約3割、活動指標は約5割だったが、「 <u>おおむね目標通りできた</u> 」（90%以上）以上では、 <u>成果指標は8割弱、活動指標は7割の達成率</u> となった。																															
3 点検・評価委員による令和6年度評価概要																															
(1) 全体評価																															
ア 6戦略中それぞれ3戦略でB評価とC評価となった。																															

イ 今回の評価でもC⁻以下の評価はなかった。

(2) 観点別評価 (7段階評価)

ア 観点1「助言や今後の期待・要望への反映率」

平均5.2であった。

イ 観点2「目標・成果の達成状況」

5.0と、昨年度結果と同じ施策2及び5で比較すると0.5ポイント上がった。

ウ 観点3「各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか」

平均5.0と昨年並みであった。

エ 観点4「児童・生徒にとって真に効果的か」

平均4.3と、昨年度結果と同様であった(同じ施策2及び5で比較)。活動実績が芳しくなかった戦略が影響したと考えられる。

観点:7から1までの7段階評価

表1 令和5年度観点別評価及び全体評価一覧

全体:AからEまでの7段階評価

施策名・戦略名	観点1 反映率	観点2 達成状況	観点3 方向性	観点4 効果的	全体	全体 (前年)
【施策2】 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み						
戦略1 教員の授業力向上	5(-)	4 ⁽⁴⁾	5 ⁽⁵⁾	4 ⁽⁴⁾	C	C
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実	5(-)	5 ⁽⁴⁾	5 ⁽⁵⁾	4 ⁽⁴⁾	C	C
戦略3 就学前教育の推進	5(-)	6 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁵⁾	4 ⁽⁴⁾	B	B
【施策5】 子ども・若者が社会と関わる力を育成するための成長支援						
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実	5(-)	5 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁵⁾	B	B
戦略2 家庭教育支援の充実	6(-)	5 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁵⁾	5 ⁽⁵⁾	B	B
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援	5(-)	5 ⁽⁴⁾	5 ⁽⁵⁾	4 ⁽⁴⁾	C	C
平均	5.2 ⁽⁻⁾	5.0 ^(4.5)	5.0 ^(5.0)	4.3 ^(4.3)		

※ ()内は昨年度の数値(施策2及び5については令和4年度に評価を受けていないため、前年度の評価を踏まえて点数付けを行う観点1を「-」としている)。

表2 令和6年度全体評価集計

評点	全体評価	割合(%)
A	0(0)	0(0)
B ⁺	0(3)	0(0)
B	3(3)	50.0(50.0)
C	3(3)	50.0(50.0)
C ⁻	0(0)	0(0)
D	0(0)	0(0)
E	0(0)	0(0)
合計	6(6)	100

()内は昨年度の数値(施策2及び5のみ)

4 点検・評価委員からの主な意見

(1) 全体評価

ア 事業のブラッシュアップ・内容についての提言

(ア) 足立区教育・保育の質ガイドライン等の活用の仕方等に目を向け、これらが教育内容の向上にどのように寄与できるのか、改めて検討することも必要である（施策2－戦略3）。

(イ) 学校文化に馴染めない子どもや要支援家庭の子どもも含めてより多くの子どもたちが参加する体験活動になるように関係団体との協働のあり方の更なる工夫が必要である（施策5－戦略1）。

(ウ) 保護者同士がつながる機会の提供方法に課題がある。子どもが同年齢の保護者だけではなく、幅広い年代の保護者同士が出会う機会等の工夫も必要である（施策5－戦略2）。

イ 戦略全体に関する意見

各取組は戦略の方向性に合致するものの、目標値を下回った原因を分析するなどして、取組を進めるべきとするもの（施策2－戦略1、施策2－戦略2、施策5－戦略3）。

(2) 今後の期待・要望

ア タブレット使用の目標値を達成しているか否かはもとより、学校・教員毎の使用時間数を把握した上で、具体的な対応が必要である（施策2－戦略1）。

イ 指標の見直しや新設を提言するもの

① 「学ぶ意欲がある」等の幼児期に育つことが期待される資質・能力が明確に伝わる成果指標

② 幼から小への移行に関して、「生活習慣にかかわる3項目」だけでなく、より子どもの実態を把握できる成果指標
(施策2－戦略3)

③ 多様な子どもの育ちを保障できるように、学校の中では経験しにくい体験や人と出会う機会となる地域の取組みを地域と連携して促進していく視点から設ける指標(施策5－戦略1)

④ 子育てに関する望ましい内容の啓発について、活動指標に関連する新たな成果指標の追加（施策5－戦略2）

5 今後の方針

(1) 今回の評価結果は各所管へフィードバックし、次年度の事業展開や改善に反映させるとともに、次年度の評価の際に「助言・今後の期待への反映率（前年度評価を受けての反映状況）」として評価する。

(2) 令和7年度改訂予定の教育振興ビジョンへの反映を検討していく。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件 名	令和8年度Chromebook更新に向けた仕様検討について																			
所管部課名	教育指導部学校ICT推進課																			
内 容	西新井小学校、梅島小学校、第十一中学校において、11月5日から7日までの3日間、現在検討している次期 Chromebook について教職員及び児童生徒の意見を聴取した。頂いた意見を踏まえ、次期Chromebook更新時の機種の見直し状況を報告する。 1 調査方法等 (1) 調査方法 ASUS 2 台、Dynabook 2 台を学校へ持ち込み、登校及び下校時、昼休み時間に多くの児童生徒に触れてもらい、また、実際に授業で利用してもらった。 (2) 回答率 児童生徒の回答率 19.3% (325人/1,683人) 教員の回答率 26.7% (27人/101人) 2 Chromebook のタイプについて Chromebook のタイプとして、PC 型 Chromebook と離脱着可能な Chromebook があり、それぞれについて意見を聴取した。 (1) 児童生徒の意見 (母数：325人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>Chromebook のタイプ</th><th>割合/人数</th><th>理由</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PC 型 Chromebook 重さ：約 1.3 kg</td><td>25.2% / 82人</td><td>① 画面が外れない方が壊す心配がない ② キーボードが大きい方が操作しやすい</td></tr> <tr> <td>離脱着可能な Chromebook 重さ：約 1.1 kg</td><td>74.8% / 243人</td><td>① 机に置きやすい ② タブレットタイプでも使える ③ (画面を外した場合) 軽くて持ち帰りやすい</td></tr> </tbody> </table> (2) 教職員の意見 (母数：27名) <table border="1"> <thead> <tr> <th>Chromebook のタイプ</th><th>割合/人数</th><th>理由</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PC 型 Chromebook 重さ：約 1.3 kg</td><td>48.1% / 13人</td><td>① 離脱着できると今以上に管理が難しくなる</td></tr> <tr> <td>離脱着可能な Chromebook 重さ：約 1.1 kg</td><td>51.9% / 14人</td><td>① 机上のスペースの確保がしやすい ② 持ち運びしやすくなることで課外活動での利用が増えそう</td></tr> </tbody> </table> (3) タイプの選定 PC 型 Chromebook ではなく、<u>離脱着可能な Chromebook を選定することとする。</u>		Chromebook のタイプ	割合/人数	理由	PC 型 Chromebook 重さ：約 1.3 kg	25.2% / 82人	① 画面が外れない方が壊す心配がない ② キーボードが大きい方が操作しやすい	離脱着可能な Chromebook 重さ：約 1.1 kg	74.8% / 243人	① 机に置きやすい ② タブレットタイプでも使える ③ (画面を外した場合) 軽くて持ち帰りやすい	Chromebook のタイプ	割合/人数	理由	PC 型 Chromebook 重さ：約 1.3 kg	48.1% / 13人	① 離脱着できると今以上に管理が難しくなる	離脱着可能な Chromebook 重さ：約 1.1 kg	51.9% / 14人	① 机上のスペースの確保がしやすい ② 持ち運びしやすくなることで課外活動での利用が増えそう
Chromebook のタイプ	割合/人数	理由																		
PC 型 Chromebook 重さ：約 1.3 kg	25.2% / 82人	① 画面が外れない方が壊す心配がない ② キーボードが大きい方が操作しやすい																		
離脱着可能な Chromebook 重さ：約 1.1 kg	74.8% / 243人	① 机に置きやすい ② タブレットタイプでも使える ③ (画面を外した場合) 軽くて持ち帰りやすい																		
Chromebook のタイプ	割合/人数	理由																		
PC 型 Chromebook 重さ：約 1.3 kg	48.1% / 13人	① 離脱着できると今以上に管理が難しくなる																		
離脱着可能な Chromebook 重さ：約 1.1 kg	51.9% / 14人	① 机上のスペースの確保がしやすい ② 持ち運びしやすくなることで課外活動での利用が増えそう																		

3 Chromebook の機種について

離脱着かつ SIM 対応可能な機種は、機種①と②の 2 機種があり、それぞれの意見は以下のとおり。

(1) 児童生徒の意見 (母数：243 人)

Chromebook の機種	割合/人数	理由
機種① (ASUS) 	57.6% ／140 人	① キーボードが薄くて使いやすい ② 見た目がスタイリッシュ ③ 画面だけで机上自立可
機種② (Dynabook) 	21.0% ／51 人	① 画面を取り外すと軽い ② PC のように使える ③ キーボードが打ちやすい
どちらも良い	21.4% ／52 人	

(2) 教職員の意見 (母数：14 人)

Chromebook の機種	割合/人数	理由
機種① (ASUS) 	35.7% ／5 人	① キーボードが薄くて使いやすい ② 見た目がスタイリッシュ
機種② (Dynabook) 	64.3% ／9 人	① 画面を取り外すと軽い ② PC のように使え、壊れにくそう ③ キーボードを支えにして立つため机を広く使える

(3) 機種選定の意見

児童生徒の意見では機種①が多数、教職員の意見では機種②が多数となっている。

4 今後の検討課題

児童・生徒及び教職員の意見と、学校 ICT 推進協議会での意見、機種①と機種②のメリット・デメリットを総合的に考慮し、機種選定としたい。

(1) 機種①と機種②のメリット・デメリット

下記各機種のメリット・デメリットを記す。

Chromebook の機種	メリット	デメリット
機種① (ASUS)  画面のみの重さ： 約 863 g	① 画面側にペンを収納できる。	① 画面裏の付属品で画面を支えるため、支え部分のスペースが必要なうえ、<u>机上で活用する際落下しやすい</u>。 ② キーボードが薄く、PC タイプでの活用時に傾斜しないので、<u>タイピングしにくい</u>。
機種② (Dynabook)  画面のみの重さ： 約 610 g	① 10.1 インチの最小型で、画面のみであれば約 610 g と軽い。 ② キーボードで画面を支えるため、<u>机上で活用時に余分なスペースを必要としない</u>。 ③ PC タイプでの活用時、キーボードが傾斜するため、<u>タイピングしやすい</u>。	① 画面側にペンを収納できない。

(2) 学校 ICT 推進協議会での意見

ア 機種①を選定した自治体では端末落下事故が多く、その対策のため新たな付属品を購入している事例がある。

イ 機種②はキーボードとキーが黒色、キーの文字認識部分が白色で構成されており、タイピングがしやすい。

5 今後のスケジュール

(1) 令和 7 年 3 月末まで
機種を選定する。

(2) 令和 8 年 1 月頃
債務負担にて物品購入契約、キッティング契約を締結する。

(3) 令和 8 年夏季休業期間中
新たな Chromebook を学校に整備する。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

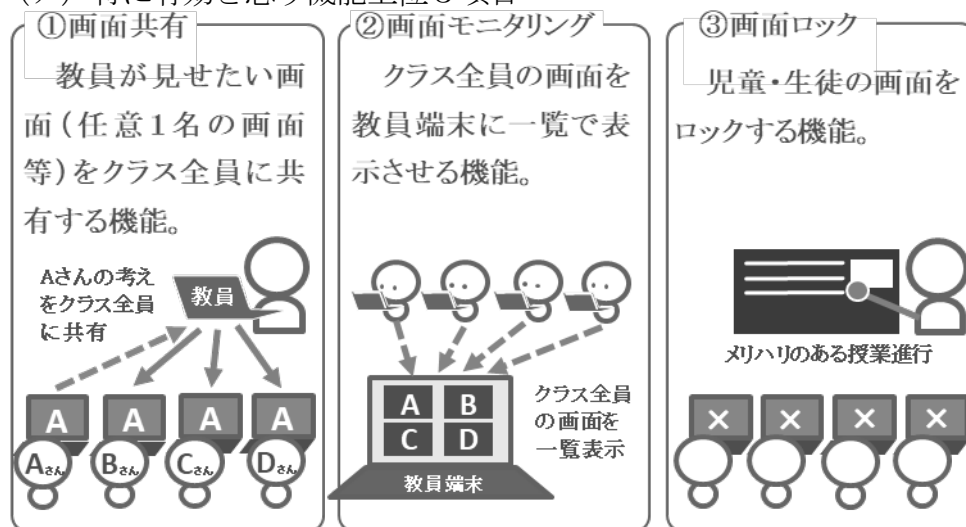
令和7年1月21日

件名	授業支援システムの全校導入について						
所管部課名	教育指導部学校ICT推進課						
内 容	令和7年度の授業支援システムの全校導入に向けて、モデル校8校に対し、InterCLASS® Advance（以下「ICA」という。）を導入し、9月から検証を開始した。11月にモデル校にアンケートを実施し、意見を聴取した結果を報告する。						
	1 導入の目的						
	（1）教員自身による、主に授業中における児童・生徒の Chromebook の画面管理や画面共有を行うことで、授業とは関係のない画面の閲覧を防ぐ。						
	（2）画面の共有により、スピーディに児童・生徒の意見等の共有を図る。						
	2 モデル校（8校）						
	西新井小学校、興本小学校、栗原小学校、舎人小学校、扇中学校、第九中学校、第十一中学校、六月中学校						
	3 アンケート実施結果						
	（1）概要（対象者232人中61人の回答）						
			検 証 観 点			結 果	
						はい	いいえ
操作性	インターフェイスは見やすいか。		89%		11%		
	簡単に操作することができるか。		87%		13%		
機能性	各機能（チャット、画面モニタリング、画面共有、画面ロック、Web ページ送信、Web ロック）は授業に有効か。		87%		13%		
	児童・生徒の画面共有可能時間は妥当か。 月～金 7：00～17：00 土 7：00～13：00		長い 3%	妥当 82%	短い 15%		
	ICA 利用時に児童・生徒の画面が共有されない等の事象はあるか。		ある 54%		ない 46%		
活用性	主体的、協働的学びの促進につながりそうか。		74%		26%		
	児童・生徒に変化はあったか。		52%		48%		
総合	継続して授業で活用していきたいか。		77%		23%		

(2) 主な意見

ア 機能に関すること

(ア) 特に有効と思う機能上位3項目



イ 活用に関すること

(ア) 教室の大型ディスプレイだけでなく、手元で画像、動画等を見せたいときに共有して活用することができた。

(イ) 児童主体の学習と親和性があり、児童主体で行う際に見守りや支援の一つとして有効だと感じる。

ウ 不具合に関すること

(ア) 動作が重くなる場面がある。

(イ) 一部の児童(およそ3名程度)に適用されない(ICAの立ち上げや画面ロック等)ことがある。

4 検証の結果

利用時に一部の児童生徒に適用されない等のデメリットもあるが、総じて肯定的に受け止められておりメリットが大きいと判断し、授業支援システムを全校導入する。

5 契約方法及び製品指定理由

(1) 契約方法

製品指定の上、一般競争入札

(2) 導入製品

InterCLASS® Advance (チエル株式会社)

(3) 製品指定理由

ア 他社製品にない、クラス内共有型のチャット機能が授業中に有効である。

イ 足立区が採用している Google との親和性が高い。

(ア) Google クラウドで作成した児童・生徒情報をワンクリックで同期させることができる。

(イ) Google クラスルームから ICA に入ることができる。

6 導入までのスケジュール（予定）

日 程	内 容
令和6年7月	検証のための利用申込
令和6年8月	学校 ICT 推進課主催の現地研修実施
令和6年9月	モデル校8校で導入検証開始
令和6年11月	導入検証のアンケート実施 ICA を全校展開するか判断
令和7年1月下旬	製品指定のうえ、一般競争入札
令和7年4月～5月	モデル校以外にオンライン研修実施
令和7年6月以降	全校で運用開始

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	SSR（不登校未然防止の為にスモール・ステップ・ルーム）空間創造委託に係る簡易公募型プロポーザル方式による事業者の特定結果について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内容	SSR（不登校未然防止の為にスモール・ステップ・ルーム）空間創造委託に係る簡易公募型プロポーザル方式による審査の結果、以下の事業者を契約の相手方として特定したので、報告する。 1 業務名 SSR（不登校未然防止の為にスモール・ステップ・ルーム）空間創造委託 2 業務目的、内容 (1) 学級に入りづらいと感じる生徒が安心して、落ち着いて過ごすことが出来る空間の創造 (2) 設置6校の現地確認、要望聴取のうえの空間創造 （第五、第十二、鹿浜菜の花、新田、西新井、東島根の各中学校） 3 参加事業者数 2事業者 4 特定した相手方 (1) 事業者名 イケア・ジャパン株式会社 (2) 所在地 千葉県船橋市浜町二丁目3番30号5階 5 特定事業者の提案価格 4,804,956円（税込） 6 履行期間 契約確定日から令和7年5月7日まで 7 特筆すべき提案概要、評価した理由・ポイント (1) 「心が安らぐ場所」をコンセプトに、部屋を「共同作業、個別学習、リラックス」の3つにエリア分けし、空間創造デザインを提案した。 (2) 現地を確認のうえ、SSRに転用する部屋の形状や学校要望に対し、より適うデザインが提案された。 (3) 耐震補強など安全確保策を施して提案価格へ計上し、ヒアリング時に具体的な内容を示したのは、特定した相手方のみであった。

8 特定までの経緯

(1) 公募期間

令和6年11月8日から同年12月5日まで

(2) 選定会議

ア 選定会議開催状況

	開催日	内容	審査事業者数
第1回	令和6年 11月7日	選定方法や評価項目等の 確認	—
第2回	令和6年 12月10日	事業者の特定:プレゼンテ ーション、ヒアリング	2事業者

イ 委員構成

岩松 朋子	教育指導部長
小室 晃	足立福祉事務所長
宮本 猛司	第一中学校長（SSR既設校）

ウ 審査項目及び審査結果 次ページのとおり

9 今後の方針

令和7年5月中旬のSSR開設に向け、学校及び事業者と連携し、
提案に沿った空間創造を進める。

SSR（不登校未然防止の為のスマール・ステップ・ルーム）空間創造
委託に係る簡易公募型プロポーザル選定会議 審査項目及び審査結果

評価項目	評価の視点	指 標	評価配分	評価点数	
				第一順位事業者	第二順位事業者
業務遂行能力	従事する人員の質や体制などは妥当か。	業務の実施体制	30	26	19
提案内容的確性	生徒が落ち着き、安心できる空間であるか。	部屋全体の雰囲気	105	103	83
	各部屋の形状、その他の諸条件に適うものであるか。家具配置等に係る安全に配慮されているか。	創意工夫があり内容は妥当か	60	60	45
	レイアウト校正の過程、調度品搬入手順は妥当か。	実施フロー又は工程表の妥当性	30	24	23
コスト	コストは妥当か。	提案見積価格	30	28	28
法令遵守	個人情報保護、ほか契約履行に関する対策を講じているか。	各種内規の内容は妥当か	15	15	13
説得力	説明に説得力があるか。	ヒアリング内容（プレゼンテーション等）	30	26	22
	論理的か。	プレゼン等における説明能力や業務への意欲、論理性、態度、資料の正確性等について			
協調性	冷静に議論できるか。				
資料調製力	打合せ資料・報告書が分かり易いか、誤字・脱字は少ないか。				
合計			300	282	233

評価項目			加点	
分類	説明	評価基準(得点)		
区外業者	区内に支店があり、対象業務区域が区内である	委員一人あたり3点を加点	0	9
総計			282 (特定)	242 (非特定)
得点率			94%	81%

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	令和6年度スモール・ステップ・ルーム（SSR）設置中学校における第2回生徒アンケート及び教員アンケートについて
所管部課名	教育指導部教育指導課
内容	令和6年4月から区内4校の中学校で運用が始まったSSRの効果及び課題を改めて把握し、次年度以降に向けた方針を検討することを目的に実施した第2回生徒アンケート及び教員アンケートの結果を報告する。 1 アンケートの概要 今回のアンケートは、SSRを運用開始時の令和6年4月から同年12月末に至るまで利用している生徒（以下「継続利用生徒」という。）と、夏季休業日明けの令和6年9月以降、新たに利用を開始した生徒（以下「新規利用生徒」という。）に内容を分け、合計50名の生徒及び教員に対して実施した。 ア 「継続利用生徒」に対するアンケート 33名中31名回収（未回収の2名は現在不登校） イ 「新規利用生徒」に対するアンケート 17名回収 ウ 「継続利用生徒」に関する教員アンケート エ 「新規利用生徒」に関する教員アンケート 2 生徒アンケート結果全体から見えるSSRの効果と課題 （1）効果 ア 「新規利用生徒」17名のうち、53%の9名の生徒がこれまで不登校であったが、SSRがあることで登校に結びついた。 イ 本事業は「不登校未然防止策」であるが、既に不登校になってしまっていた生徒を登校につなげ、居場所づくりや絆づくりとしての役割を担う効果もあることが確認できた。 （2）課題 ア 「継続利用生徒」33名のうち、2名が不登校になっている。人間関係に疲れてしまったことや、集団での生活になじめずに登校できなくなってしまったことが原因である。今後は、これまでSSRに来ていた生徒が不登校状態になってしまった時、学校としてどのような指導・支援ができるかを改めて検討していく必要がある。

3 「継続利用生徒」に対するアンケートについて

(1) 「継続利用生徒」の内訳

		第一	蒲原	加賀	六月	計
学年 内訳	1 年	4 名	1 名	1 名	1 名	7 名
	2 年	2 名	3 名	3 名	1 名	9 名
	3 年	5 名	5 名	2 名	5 名	17 名
計		11 名	9 名	6 名	7 名	33 名

(2) 「継続利用生徒」の状況

生徒の状況	人数	学校内訳	
SSRを不登校未然防止として利用している生徒	21 名 (64%)	第一	7 名
		蒲原	5 名
		加賀	3 名
		六月	6 名
不登校であった（不登校傾向を含む。）が、SSRが開設されたことで登校するようになった生徒	12 名 (36%)	第一	4 名
		蒲原	4 名
		加賀	3 名
		六月	1 名

※ 不登校及び不登校傾向の生徒の内訳として、1 年生は 1 名、2 年生は 6 名、3 年生は 5 名

(3) 「継続利用生徒」への質問内容

- ア 現在、SSRをどのくらいのペースで利用しているか
- イ 現在のSSRの居心地はどうか及びその理由
- ウ 今後もSSRを利用したいと思うか
- エ 現在もSSRがあることで以前と比較して学校に登校しやすくなったか
- オ SSRに対する要望や希望

(4) 「継続利用生徒」に対するアンケート結果（回答数 31）

- ア アンケート結果抜粋
 - (ア) 全体の約 6 割の生徒が毎日利用している。
 - (イ) SSRを「週 3 日から週 4 日」利用している生徒数が増え、安定して登校できる生徒が増加した。
- イ アンケート結果の詳細を【資料 1 21 ページ】に掲載する。
- ウ SSRに対する要望や希望
 - (ア) SSRを利用する人が多いため、座席数を増やしてほしい
 - (イ) SSR利用者が多いため、部屋数を増やしてほしい
 - (ウ) 名札があるといいと思う

- (エ) ベッドがあるといい
- (オ) ボードゲームやオセロを増やしてほしい（２名）
- (カ) 勉強に専念したい人や静かに過ごしたい人と遊ぶ人で部屋を分けてほしい
- (キ) エアコンを使用する際に部屋に十分に冷房や暖房が行き届かない

4 「新規利用生徒」に対するアンケートについて

(1) 「新規利用生徒」の内訳

		第一	蒲原	加賀	六月	計
学年 内訳	1 年	0 名	0 名	1 名	1 名	2 名
	2 年	3 名	4 名	0 名	1 名	8 名
	3 年	0 名	3 名	1 名	3 名	7 名
計		3 名	7 名	2 名	5 名	17 名

(2) 「新規利用生徒」の状況

生徒の状況	人数	学校内訳	
SSRを不登校未然防止として利用している生徒	8 名 (47%)	第一	2 名
		蒲原	2 名
		加賀	2 名
		六月	2 名
不登校であった（不登校傾向を含む）が、SSRが開設されたことで登校するようになった生徒	9 名 (53%)	第一	1 名
		蒲原	5 名
		加賀	0 名
		六月	3 名

※ 不登校及び不登校傾向の生徒の内訳として、1 年生は 1 名、2 年生は 5 名、3 年生は 3 名

(3) 「新規利用生徒」への質問内容

- ア SSRをいつから利用しているか
- イ SSRをどのくらいのペースで利用しているか
- ウ SSRを利用しようとした理由やきっかけ
- エ SSRの居心地はどうか及びその理由
- オ 今後もSSRを利用したいと思うか
- カ SSRがあることで以前と比較して学校に登校しやすくなったか
- キ SSRに対する要望や希望

- (4) 「新規利用生徒」におけるアンケート結果（回答数17）
- ア アンケート結果抜粋
- (ア) 新規利用生徒17名のうち、53%の9名の生徒がこれまで不登校であったが、SSRがあることで登校に結びついた。
- (イ) SSRを利用する理由として、「登校の不安」「友達との関係不安」「学習への不安」を回答した生徒が約8割である。
- イ アンケート結果の詳細を【資料1 21ページ】に掲載する。
- ウ SSRに対する要望や希望
- (ア) 個室があるといい
- (イ) スタディサプリを利用したい

5 検討事項

「継続利用生徒」及び「新規利用生徒」からの意見について、以下に対応方針を示す。

- (1) 「継続利用生徒」からの意見について、以下のとおり対応する。

課題	対応策
ア SSRを利用する人が多い ため、座席数を増やしてほしい	利用者数と予算との兼ね合いを見ながら検討する。
イ SSR利用者が多いため、部屋数を増やしてほしい	部屋数を増やすことはしない が、パーテーションなどによりエリアを分けるなどの対応を検討する。
ウ 勉強に専念したい人や静かに過ごしたい人と遊ぶ人で部屋を分けてほしい	「教室のきまり」等の作成において、SSRを利用する生徒たちの自発的な意見や考えを聞き取ったり、協議し合ったりする場を設けるなど、SSRを利用する全ての生徒が気持ちよく生活できるようにするための環境作りを依頼する。
エ 名札があるといいと思う	SSR設置校に連絡し、各校の実態に応じて名札を作成するよう依頼する
オ ベッドがあるといい	生徒にとって単なる「遊び場」とならないよう各校の実態に応じて慎重に対応する。
カ ボードゲームやオセロを増やしてほしい	
キ エアコンを使用する際に部屋に十分に冷房や暖房が行き届かない	該当校に状況確認を依頼するとともに、必要に応じて学校施設管理課に情報提供し、空調設備の点検を依頼する。

(2) 「新規利用生徒」からの意見について、以下のとおり対応する。

課題	対応策
ア 個室があるといい	SSRは個別スペース、共同作業スペース、リラックススペースの3つのスペースを意図的に配置している。そのため、壁等で仕切られた個室は設置しない。一方で、「教室のきまり」等の作成において、SSRを利用する生徒たちの自発的な意見や考えを聞き取ったり、協議し合ったりする場を設けるなど、SSRを利用する全ての生徒が気持ちよく生活できるようにするための環境作りを依頼する。
イ スタディサプリを利用したい	生徒一人一人に貸与されているタブレットに内蔵されているAIドリルの有効活用を依頼する。

6 教員アンケートについて

SSR指導員を中心に、「継続利用生徒」及び「新規利用生徒」を合わせた計50名の現状についてアンケートを実施した。

7 教員アンケート結果から見えるSSRの効果と課題

(1) 効果

ア 「継続利用生徒」の9割以上が現在でも定期的にSSRを利用しており、SSRが生徒にとって居場所としての機能を果たしていることが確認できている。

(2) 課題

ア 本事業の運用開始から9か月が経過し、「継続利用生徒」の「登校状況」について遅刻・欠席等が増加してきている。元々集団での生活が苦手な生徒がSSRを利用していることもあり、生徒の緊張感が徐々に緩み始めていることが伺える。

イ 3年生でSSRを利用している生徒が、進学先が決定したことで、学習意欲を失ったり、何となくSSRで生活していたりする様子が伺える。SSRでは生徒の考えを尊重し、教師はサポートを行うが、学習について積極的に声掛けを行いながら、学ぶ意味や意義についても指導・支援していく必要がある。

	8 「継続利用生徒」及び「新規利用生徒」に関する教員アンケートについて (1) 質問内容（「継続利用生徒」「新規利用生徒」共通） - ア WEBQU（学校満足度等）の変化 - イ 登校状況の変化 - ウ 友人関係の変化 - エ リモート授業の活用 - オ 課題・宿題等の取組状況 - カ その他の変容 (2) 「継続利用生徒」に関する教員アンケート結果 - ア アンケート結果抜粋 (ア) 登校状況の変化から、「少し悪化した」生徒の理由として、登校する時間が徐々に遅くなってきている。 (イ) 課題・宿題等の取組状況で、「少し悪化した」生徒の理由として、課題に取り組む時間が減少した。 - イ アンケート結果の詳細を【資料2 22ページ】に掲載する。 (3) 「新規利用生徒」に関する教員アンケート結果 - ア アンケート結果抜粋 (ア) WEBQU（学校満足度等）の変化から、「悪化した」生徒の理由として、当該生徒はSSRに登校できているが、学校が保護者となかなか連絡が取れず、何事も生徒に任せきりになっている。 (イ) 課題・宿題等の取組状況で、「少し悪化した」生徒の理由として、SSRに通い始めた頃は課題に取り組んでいたが、仲間ができ、学習に対する意欲が少しずつ薄れてきた。 - イ アンケート結果の詳細を【資料3 23ページ】に掲載する。 9 教員からみた学校全体としてSSRの変容について - ア 「新規利用生徒」の3名の生徒が「SSRがあることで少しずつ登校できるようになり、出席日数が増加した」と回答し、2名の生徒が「SSRがなかったら人間関係や学業不振等が理由で不登校になっていた」と発言している。（第一中学校） - イ SSR開設当初は、自分で決めた課題や学習に一人で取り組んでいた生徒が多かったが、利用する人数が増加するにつれて学習を行う時間が減った。しかしその反面、学年を超えた生徒間で会話やカードゲーム、運動を一緒に行う場面が多くみられるようになり、コミュニケーションを図る機会が増加した。（蒲原中学校） - ウ SSRに掲示されている週時程表を見ながら次週に参加する授業
--	--

	を自分で選択し、実際にその授業に参加できる生徒が現れるようになった。（加賀中学校） エ S S Rを利用している3年生のうち、通信制の高等学校に進学が決定した生徒は、安堵感から生活リズムが緩みがちになっている。（六月中学校） オ S S Rを一度に10人以上の生徒が利用する日があった。生徒は互いに譲り合って自分自身の居場所を作ることができる風土が形成されつつある。（六月中学校） 10 今後の方針 （1）令和7年1月下旬に実施予定の第5回S S R連絡会において、今回のアンケート結果を提示し、学校の実態に応じて適切な指導・支援を実施するよう依頼する。 （2）本アンケート結果について校長会や生活指導担当者連絡会等で改めて周知する。 （3）令和7年度に新たにS S Rを設置する学校に対して、今回のアンケート結果を共有するとともに、必要に応じて、S S Rについての理解を深める研修会を実施する。 （4）令和8年度に新たにS S Rを開設する学校に対しても、今回のアンケートを用いて教職員がS S Rについて理解を深めることのできる研修会を実施する。
--	---

令和 6 年度スモール・ステップ・ルーム（SSR）設置中学校における「継続利用生徒」「新規利用生徒」アンケートの結果について

※ 本資料の％において、端数処理の都合上、合計値が 100 にならないことがある

「継続利用生徒」に対するアンケート結果

1 現在、SSRをどのくらいのペースで利用しているか

	第 1 回			第 2 回	
	人数	%		人数	%
毎日	20 名	61 %	➡	18 名	58 %
週 3 日～週 4 日	3 名	9 %		9 名	29 % (+20)
週 2 日～週 3 日	1 名	3 %		0 名	0 %
週 1 日～週 2 日	7 名	21 %		4 名	13 %
月に何日か	2 名	6 %		0 名	0 %

※ 第 1 回時の回収は 33 名、第 2 回時の回収は 31 名（未回収の生徒 2 名は現在不登校）。

ア 前回同様、約 6 割の生徒が「毎日」利用している。

イ 「週 3 日～週 4 日」の生徒数が増え、安定して登校できる生徒が増加した。

2 現在のSSRの居心地はどうか

	第 1 回			第 2 回	
	人数	%		人数	%
とても良い	15 名	46 %	➡	13 名	42 %
良い	15 名	46 %		15 名	48 %
あまり良くない	3 名	9 %		2 名	7 % (-2)
良くない	0 名	0 %		1 名	3 % (+3)

ア 2 の質問で「あまり良くない」「良くない」、3 及び 4 の質問で「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒の理由として「**クラスとさほど変わらない**」「**うるさい**」という教室環境における不満の声が見られた。

イ 3 の質問で「思わない」と回答した生徒から「**教室に戻りたい**」という意見が見られた。

3 今後もSSRを利用したいと思うか

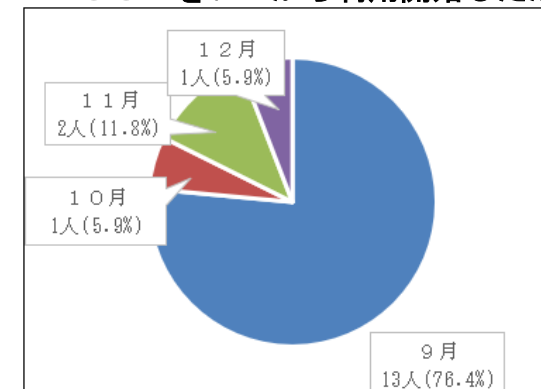
	第 1 回			第 2 回	
	人数	%		人数	%
とてもそう思う	16 名	48 %	➡	14 名	45 %
そう思う	16 名	48 %		13 名	42 %
あまり思わない	1 名	3 %		3 名	10 % (+7)
思わない	0 名	0 %		1 名	3 % (+3)

4 現在、SSRがあることで以前と比較して学校に登校しやすくなったか

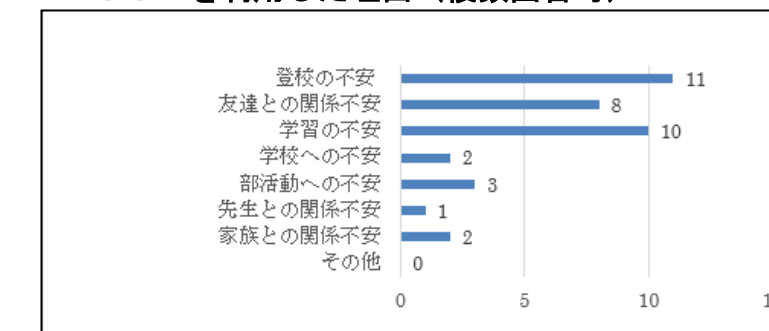
	第 1 回			第 2 回	
	人数	%		人数	%
とてもそう思う	16 名	48 %	➡	18 名	58 %
そう思う	16 名	48 %		9 名	29 %
あまり思わない	1 名	3 %		4 名	13 % (+10)
思わない	0 名	0 %		0 名	0 %

「新規利用生徒」に対するアンケート結果

1 SSRをいつから利用開始したか



2 SSRを利用した理由（複数回答可）



※ 延べ回答数 37 のうち、「登校の不安」「友達との関係不安」「学習への不安」が約 8 割である

3 SSRをどのくらいのペースで利用しているか

	人数	%
毎日	10 名	59 %
週 3 ～週 4	3 名	18 %
週 2 ～週 3	0 名	0 %
週 1 ～週 2	3 名	18 %
月に何日か	1 名	6 %

4 SSRの居心地はどうか

	人数	%
とても良い	7 名	41 %
良い	10 名	59 %
あまり良くない	0 名	0 %
良くない	0 名	0 %

5 今後もSSRを利用したいと思うか

	人数	%
とてもそう思う	10 名	59 %
そう思う	6 名	35 %
あまり思わない	1 名	6 %
思わない	0 名	0 %

6 SSRがあることで以前と比較して学校に登校しやすくなったか

	人数	%
とてもそう思う	10 名	59 %
そう思う	6 名	35 %
あまり思わない	0 名	0 %
思わない	1 名	6 %

生徒アンケートから見える成果と課題

ア 「新規利用生徒」17 名のうち、53 %の 9 名の生徒がこれまで不登校であったが、これらの生徒は SSR があることで登校に結びついた。本事業は「不登校未然防止策」であるが、既に不登校になってしまっていた生徒を登校につなげ、居場所づくりや絆づくりとしての役割を担う効果があることも確認できた。

イ 「継続利用生徒」33 名のうち、2 名が不登校になっている。人間関係に疲れてしまったことや、「新規利用生徒」を含む集団での生活になじめずに登校できなくなってしまうことが原因である。今後は、これまで SSR に来れていた生徒が不登校状態になってしまった時、学校としてどのような指導・支援ができるかを改めて検討していく必要がある。

令和6年度スモール・ステップ・ルーム（SSR）設置中学校における教員アンケートの結果について

「継続利用生徒」に関する教員アンケート結果

1 WEBQU（学校満足度等）の変化

質問項目	第1回			第2回	
	人数	%		人数	%
改善した	0名	0%	➡	0名	0%
少し改善した	4名	12%		3名	9%
現状維持	27名	82%		28名	85%
少し悪化した	1名	3%		0名	0%
悪化した	1名	3%		2名	6%

※ 「悪化した」生徒の理由（2名）

SSRを利用してはなお、コミュニケーションに課題のある生徒である。どちらか一方の生徒が欠席してしまうと、SSRの中で会話をできる生徒がおらず、一人で静かに過ごしている（第一中学校2名）。

2 登校状況の変化

質問項目	第1回			第2回	
	人数	%		人数	%
改善した	2名	6%	➡	0名	0%
少し改善した	10名	30%		5名	15%
現状維持	20名	61%		17名	52%
少し悪化した	1名	3%		9名	27%
悪化した	0名	0%		2名	6%

※ 「少し悪化した」生徒の理由（9名）

ア 登校する時間が徐々に遅くなってきている。（7名）
 イ 前回のアンケート時と比較して、欠席する日が増加した。
 ウ 朝から登校できる日があったり、給食の直前に登校することがあったりと、登校の時間帯が安定しなくなってきた。

※ 「悪化した」生徒の理由（2名）

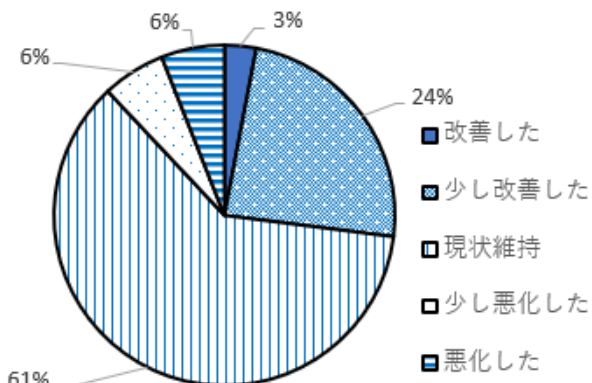
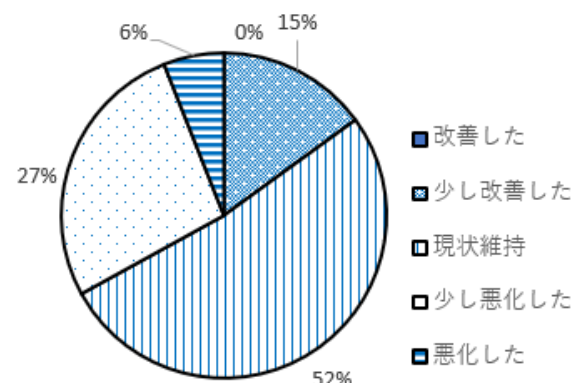
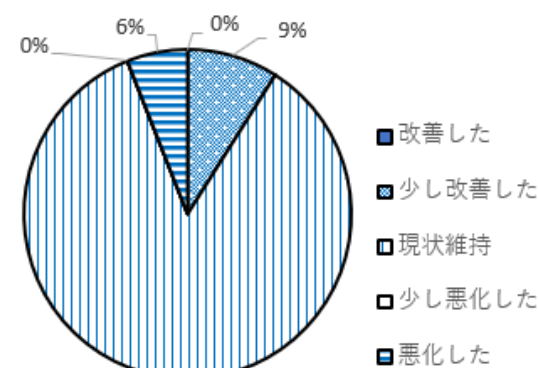
ア 10月から不登校となってしまった。登校が出来なくなってしまった理由について、本人から聞き取りができていない。
 イ 11月から不登校となってしまった。登校が出来なくなってしまった理由について、本人から聞き取りができていない。

3 友人関係の変化

質問項目	第1回			第2回	
	人数	%		人数	%
改善した	0名	0%	➡	1名	3%
少し改善した	11名	33%		8名	24%
現状維持	20名	61%		20名	61%
少し悪化した	2名	6%		2名	6%
悪化した	0名	0%		2名	6%

※ 「少し悪化した」生徒の理由（2名）

ア SSRを利用している他の生徒に対して批判的、否定的な内容の会話をすることがある。また、下級生に対してきつい言葉掛けを行ってしまうことがある。



イ これまで給食を学級に取りに行き、その後、SSRで喫食をしていたが、教室に給食を取りに行くことを渋るようになった。登校自体が不安定になりつつある。

※ 「悪化した」生徒の理由（2名）

ア 10月から登校できなくなってしまった生徒。
 イ 11月から登校できなくなってしまった生徒。

4 リモート授業の活用

質問項目	第1回			第2回	
	人数	%		人数	%
改善した	1名	3%	➡	1名	3%
少し改善した	2名	6%		0名	0%
現状維持	28名	85%		31名	94%
少し悪化した	2名	6%		1名	3%
悪化した	0名	0%		0名	0%

※ 「少し悪化した」生徒の理由（1名）

ア これまでリモート授業を受けていたが、進路先が決定したことで、リモート授業を受けなくなってしまった。

5 課題・宿題等の取組状況

質問項目	第1回			第2回	
	人数	%		人数	%
改善した	0名	0%	➡	0名	0%
少し改善した	1名	3%		2名	6%
現状維持	29名	88%		23名	70%
少し悪化した	3名	9%		7名	21%
悪化した	0名	0%		1名	3%

※ 「少し悪化した」生徒の理由（7名）

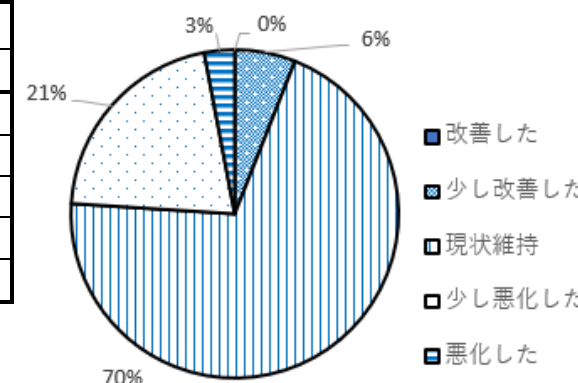
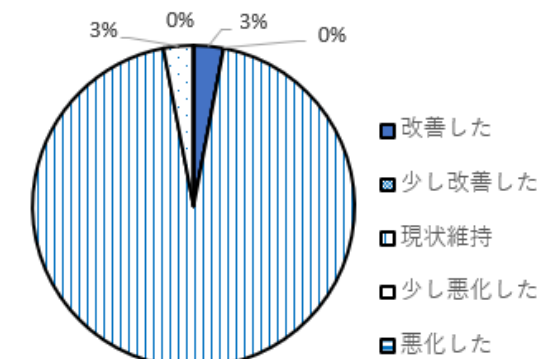
ア 課題に取り組む時間が減少した。（6名）
 イ 定期考査は別室で受けたが、SSRで課題に取り組む姿勢や意欲が見られなくなった。

※ 「悪化した」生徒の理由（1名）

ア 10月から不登校になってしまった生徒。これまでは課題に取り組んでいたが、現在は課題に取り組めていない。

6 その他の変容

ア 運動会、職場体験に参加することが出来たが、合唱コンクールには参加できなかった。（第一中学校）
 イ 毎日SSRで給食を食べていたが、教室で喫食できる回数が増加するとともにSSRに来室する回数が減った。（第一中学校）
 ウ 運動会は見学での参加であったが、合唱コンクールには参加できた。（第一中学校）
 エ 週に1度、スクールカウンセラーと面談を実施するようになった。（蒲原中学校）
 オ 週に2回、定期的にチャレンジ学級に通うようになった。（蒲原中学校）
 カ 教室で授業に参加できるようになった。（加賀中学校）



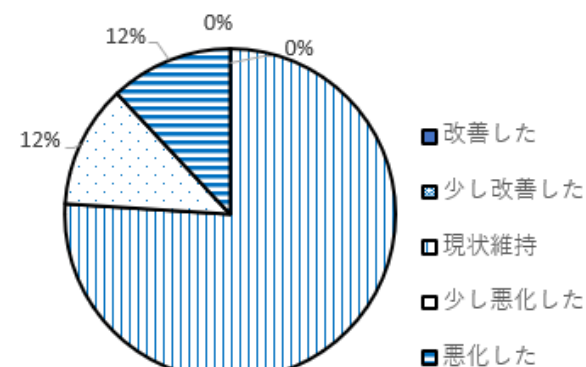
令和6年度スモール・ステップ・ルーム（SSR）設置中学校における教員アンケートの結果について

※ 本資料の%において、端数処理の都合上、合計値が100にならないことがある

「新規利用生徒」に関する教員アンケート結果

1 WEBQU（学校満足度等）の変化

質問項目	人数	%
改善した	0名	0%
少し改善した	0名	0%
現状維持	13名	76%
少し悪化した	2名	12%
悪化した	2名	12%



※ 「少し悪化した」生徒の理由（2名）

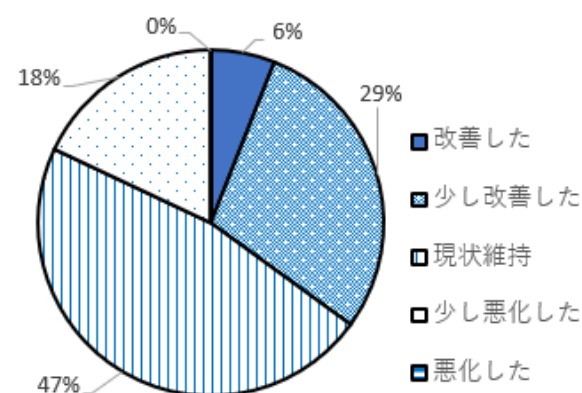
- ア 好きなことにのみ取り組み、常に仲の良い友達と一緒にいる（侵害行為認知群→学校生活不満足群）。
 イ SSRに登校するが、周りの生徒の目を避けるようにして登校時間をずらしている（非認証群→学校生活不満足群）。

※ 「悪化した」生徒の理由（2名）

- ア 友達とのコミュニケーションをとることが非常に苦手（学校生活不満足群→要支援群）。しかし、SSRを利用するようになってからトランプを通して友達ができ、会話が見られるようになった。
 イ 保護者と連絡がなかなか取れず、何事も生徒に任せきりになっている（学校生活不満足群→要支援群）。

2 登校状況の変化

質問項目	人数	%
改善した	1名	6%
少し改善した	5名	29%
現状維持	8名	47%
少し悪化した	3名	18%
悪化した	0名	0%

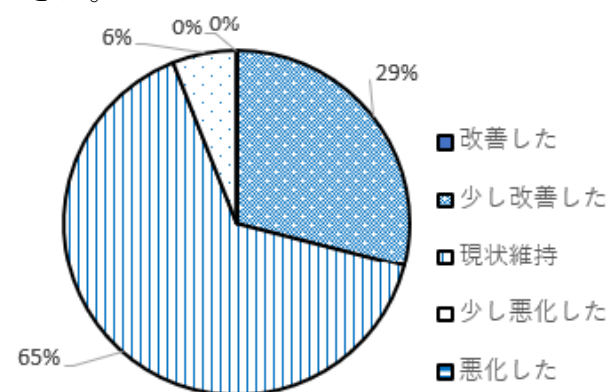


※ 「少し悪化した」生徒の理由（3名）

- ア SSRに登校する回数が減った。
 イ 教科によっては教室で授業を受けることができていたが、SSRのみに登校するようになった。
 ウ SSRに登校する時間帯が遅くなってきた。

3 友人関係の変化

質問項目	人数	%
改善した	0名	0%
少し改善した	5名	29%
現状維持	11名	65%
少し悪化した	1名	6%
悪化した	0名	0%

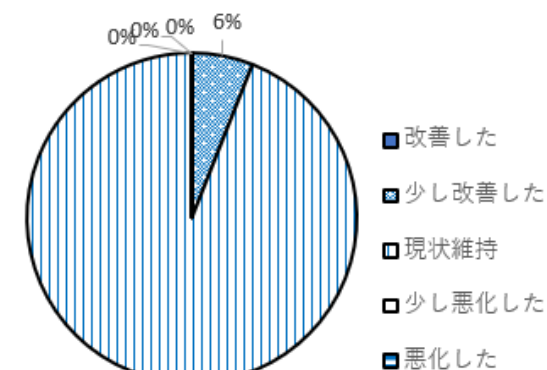


※ 「少し悪化した」生徒の理由（1名）

相手の立場を考えた言動に課題があり、上級生との関係に悩んでいる。

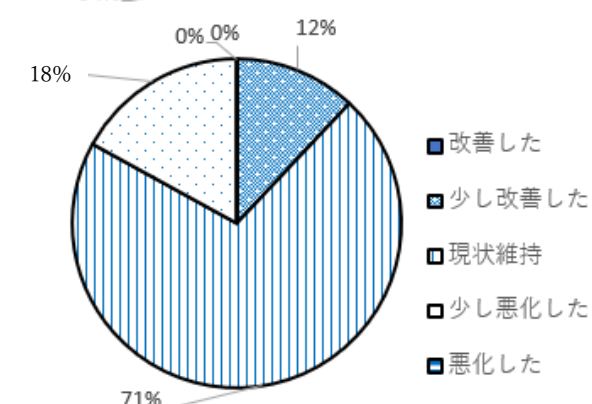
4 リモート授業の活用

質問項目	人数	%
改善した	0名	0%
少し改善した	1名	6%
現状維持	16名	94%
少し悪化した	0名	0%
悪化した	0名	0%



5 課題・宿題等の取組状況

質問項目	人数	%
改善した	0名	0%
少し改善した	2名	12%
現状維持	12名	71%
少し悪化した	3名	18%
悪化した	0名	0%



※ 「少し悪化した」生徒の理由（3名）

SSRに通い始めた頃は課題に取り組んでいたが、仲間ができ、学習に対する意欲が少しずつ薄れてきた。（蒲原中学校3名）

6 その他の変容

- ア 吹奏楽部の活動に参加できるようになった。（第一中学校）
 イ 毎週定期的にスクールカウンセラーと面談を実施するようになった。（蒲原中学校）
 ウ 毎週1回、特別支援教室の授業を受けている。（蒲原中学校）
 エ 毎週2回、チャレンジ学級に通級できるようになった。（蒲原中学校）

【資料2】及び【資料3】から見えるSSRの成果と課題

- ア 本事業の運用開始から9か月が経過し、「継続利用生徒」の「登校状況」について遅刻・欠席等が増加してきている。元々集団での生活が苦手な生徒がSSRを利用していることもあり、生徒の緊張感が徐々に緩み始めていることが伺える。しかし、「継続利用生徒」の9割以上が現在でも定期的にSSRを利用しており、SSRが生徒にとって居場所としての機能を果たしていることが確認できている。
 イ 3年生でSSRを利用している生徒が、進学先が決定したことで、学習意欲を失ったり、何となくSSRで生活していたりする様子が伺える。SSRでは生徒の考えを尊重し、教師はサポートを行うが、学習について積極的に声掛けを行いながら、学ぶ意味や意義についても指導・支援していく必要がある。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	「令和6年度第2回学校生活及びいじめに関するアンケート調査」報告について																						
所管部課名	教育指導部教育指導課																						
内容	1 アンケート実施期間 令和6年11月1日から同月29日までにおいて各学校が定めた期間 ※（参考）年3回（6月、11月、2月）実施																						
	2 対象 全区立小・中学校 全児童・生徒 調査回答数 小学校 28,955名 中学校 12,701名 計 41,656名 回収率 97.7%（6月：99.8%）																						
	3 結果概要（主要項目の第1回（6月実施）との比較） 全体については26～27ページ参照。（+増加、△減少）																						
	<table><tr><th></th><th>数</th><th>割合</th><th>増減</th></tr><tr><td>相談できる人がいる</td><td>41,042人</td><td>98.5%</td><td>△520人 △0.5ポイント</td></tr><tr><td>相談できる人がいない</td><td>614人</td><td>1.5%</td><td>+176人 +0.5ポイント</td></tr><tr><td>冷やかし、からかい、悪口を言われた</td><td>3,424件</td><td>8.2%</td><td>+117件 +0.3ポイント</td></tr><tr><td>未提出数 ※</td><td>992件</td><td>2.3%</td><td>+469件 +1.1ポイント</td></tr></table>				数	割合	増減	相談できる人がいる	41,042人	98.5%	△520人 △0.5ポイント	相談できる人がいない	614人	1.5%	+176人 +0.5ポイント	冷やかし、からかい、悪口を言われた	3,424件	8.2%	+117件 +0.3ポイント	未提出数 ※	992件	2.3%	+469件 +1.1ポイント
		数	割合	増減																			
相談できる人がいる	41,042人	98.5%	△520人 △0.5ポイント																				
相談できる人がいない	614人	1.5%	+176人 +0.5ポイント																				
冷やかし、からかい、悪口を言われた	3,424件	8.2%	+117件 +0.3ポイント																				
未提出数 ※	992件	2.3%	+469件 +1.1ポイント																				
※ うち不登校であり、回収に至らなかった751件（+375件）																							
4 アンケート結果の分析と今後の対応																							
結果の分析		今後の対応																					
ア 「相談できる人がいる」は、高い割合を維持しているものの、6月と比べ減少している。特に中学生の減少の割合が大きく、先生や友人に相談できる生徒が減少している。今後も個別の支援やフォローアップが必要である。 （P26結果1参照）		ア 相談しやすい環境づくりを推進し、全ての児童・生徒が安心して相談できる体制を築くため、教職員やスクールカウンセラーとの信頼関係の構築を強化するよう依頼する。また、校内だけでなく校外での相談先も周知し、学校で話しにくいことも相談できる手段を提示する。																					
イ 冷やかし、からかい、悪口を言われた児童・生徒の割合はほぼ横ばいではあるものの、回答が最も多い項目である。いじめ		イ 各学校において、コミュニケーションスキルの獲得や対人関係の改善を目的としたソーシャルスキルトレーニングの充実を																					

	の早期発見・対策の充実を図るとともに日常的な見守りが必要である。	図る。また、教職員間で連携を図り、担任個人ではなく、学年、学校単位で児童・生徒を見守るとともに、情報共有を行う。
	ウ アンケートの未提出者数が増加しており、特に中学校での増加が目立つ。	ウ 今回から全中学校においてデジタル化を実施した。回答方法を変更して初めての実施ということもあり、35校中31校の未提出数が増加している。未提出の増加とデジタル化との関連を現在調査中である。また、日本語による読解が困難な状況により未提出となっている児童・生徒のため英語、中国語に翻訳したアンケート用紙を活用する。
	5 今後の方針 (1) いじめ予防の好事例の展開 令和6年12月実施「児童・生徒主体のいじめ予防の取組の実施状況」の調査結果をもとに、好事例について他校に情報提供し、取組の充実を図る。 (2) 各校へ向けた結果概要の公表 令和7年1月の定例校長会、生活指導担当者連絡会において、本アンケートの結果概要を公表するとともに、相談しやすい環境づくり等について対応を依頼する。 (3) 各校の取組のヒアリング 令和7年2月の教育課程編成及び届出に関する相談日において、ソーシャルスキルトレーニング等の各校における独自の取組についてヒアリングを行う。好事例について他校に情報提供し、取組の充実を図る。 (4) 結果の報告 令和7年3月開催予定の足立区いじめ等問題対策委員会にて、本アンケート結果概要について報告する。	

令和6年度 第2回学校生活及びいじめに関するアンケート調査結果（R6. 11月）

基礎情報	小学校			中学校			合計		
	R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11
在籍数	29,745 人	29,132 人	29,232 人	13,562 人	13,391 人	13,416 人	43,307 人	42,523 人	42,648 人
調査回答数	29,492 人	28,897 人	28,955 人	13,192 人	13,103 人	12,701 人	42,684 人	42,000 人	41,656 人
回答率	99.1%	99.2%	99.1%	97.3%	97.8%	94.7%	98.6%	98.8%	97.7%
未回収数	253 人	235 人	277 人	370 人	288 人	715 人	623 人	523 人	992 人
前回未回収数	178 人	342 人	235 人	226 人	404 人	288 人	404 人	746 人	523 人

結果 （回答件数）

調査項目		小学校			中学校			合計		
		R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11
1	相談できる人がいる	99.2%	99.3%	99.0%	98.2%	98.1%	97.5%	98.9%	99.0%	98.5%
	内訳									
	家の人	90.4%	91.8%	89.6%	79.9%	82.9%	80.2%	87.2%	89.0%	86.7%
	※複数回答									
	先生	64.5%	65.0%	63.8%	53.0%	54.2%	51.5%	61.0%	61.7%	60.0%
	友人	60.9%	58.7%	60.3%	76.7%	78.4%	75.7%	65.8%	64.8%	65.0%
	S C	14.6%	13.8%	14.3%	19.3%	20.4%	17.4%	16.0%	15.9%	15.2%
	その他	3.5%	3.9%	3.5%	2.1%	1.7%	1.2%	3.1%	3.2%	2.8%
・親の友人・病院の先生・看護師・放課後デイサービスの先生・放課後子ども教室スタッフ・いとこ・祖父母・学童の先生・おじおば・ペット（犬）・習い事の先生・塾の先生・電話相談・先輩・親戚・友人の母・児童相談所・近所の人・ぬいぐるみ・スクールアシスタント・訪問看護・母子生活支援施設職員・八百屋さん・警察・フリースクールの先生・病院のカウンセラー・主事・お店の人・ピアノの先生・幼馴染・信用できる人・幼稚園の先生・人形・相談ネット・見守りの人・児童精神科の先生・療育の先生・プロデューサー・オンラインゲーム上の友達・子ども支援センターげんき・いきいき館のスタッフ・サッカーのコーチ・マンションの管理人・ファミサポのスタッフ・バドミントンの人・地域の人・LINE相談・ネットの友達・動物・自然・図書館司書・自分自身・外部コーチ・心療内科の先生・教育相談の人・子ども家庭相談課・あすテップの先生・彼氏										
2	冷やかしの、からかい、悪口を言われた	2,871 人	3,069 人	3,095 人	174 人	238 人	329 人	3,045 人	3,307 人	3,424 人
		9.7%	10.6%	10.7%	1.3%	1.8%	2.6%	7.1%	7.9%	8.2%
3	仲間はずれ、無視	1,190 人	1,206 人	1,277 人	61 人	56 人	103 人	1,251 人	1,262 人	1,380 人
		4.0%	4.2%	4.4%	0.5%	0.4%	0.8%	2.9%	3.0%	3.3%
4	軽くぶつかる、叩かれる、蹴られる	810 人	871 人	928 人	91 人	97 人	135 人	901 人	968 人	1,063 人
		2.7%	3.0%	3.2%	0.7%	0.7%	1.1%	2.1%	2.3%	2.6%
5	ひどく叩かれる、蹴られる	628 人	572 人	528 人	30 人	32 人	42 人	658 人	604 人	570 人
		2.1%	2.0%	1.8%	0.2%	0.2%	0.3%	1.5%	1.4%	1.4%
	お金を取られる、隠される	15 人	21 人	22 人	4 人	4 人	1 人	19 人	25 人	23 人
		0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満
6	・タンスの引き出しに入っていた現金がなくなった・貯金箱を取られそうになった・ゲームソフトを取られ、砂に埋められた・妹と妹の友達にお金を取られた・ちょうだいとしつこく言われお金を渡した。また、お菓子をもらうためにお金を払った・友達の家でお金を取られた・お金を取られてはいないがちょうだいと言われ嫌な気持ちになった・友達の家に財布を忘れたら千円抜かれたが、後日返してもらった・公園でジュースを買ったらお釣りを使われた・公園でかくれんぼをしていた時に財布から千円取られた。後で返してもらった・友達から百円取られた									

調査項目		小学校			中学校			合計		
		R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11
7	物をとられる、隠される	592 人	594 人	656 人	51 人	45 人	68 人	643 人	639 人	724 人
		2.0%	2.1%	2.3%	0.4%	0.3%	0.5%	1.5%	1.5%	1.7%
8	嫌なことをされる、させられる	422 人	435 人	460 人	29 人	33 人	47 人	451 人	468 人	507 人
		1.4%	1.5%	1.6%	0.2%	0.3%	0.4%	1.1%	1.1%	1.2%
9	パソコンやスマホ、携帯での嫌がらせ	91 人	93 人	111 人	36 人	39 人	35 人	127 人	132 人	146 人
		0.3%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%
10	他のことでいじめられた	206 人	203 人	252 人	11 人	9 人	17 人	217 人	212 人	269 人
		0.7%	0.7%	0.9%	0.1%未満	0.1%未満	0.1%未満	0.5%	0.5%	0.6%
	・つねられる、足を踏まれる・ボールを遠くに蹴られた・中指を立てられた・水筒に落書きされた・噂話をされた・嫌だと言ってもこちょこちょされた・太ももをツンツンされた・消しゴムを投げられた・所属するチームのことをバカにされた・道具箱に石を入れられた・列の順番を抜かされた・怖い画像を見せられた・追いかけられた・変な顔をされた・にらまれた・避けられた・ものを買ってくるように言われた・友達やめようかなと言われた・転んだ時に笑われた・服を引っ張られた・噛まれた・言っていないことを言ったと言って攻められた・通せんぼをされた・自分のおもちゃを触られた・洋服を脱げと言われた・股間を触られた・真似をされた・遅えよと言われた									
11	友達がいじめられているのを見た	1,786 人	1,720 人	1,856 人	92 人	122 人	115 人	1,878 人	1,842 人	1,971 人
		6.1%	6.0%	6.4%	0.7%	0.9%	0.9%	4.4%	4.4%	4.7%
12	今、いじめられている	335 人	351 人	339 人	28 人	35 人	32 人	363 人	386 人	371 人
		1.1%	1.2%	1.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.9%	0.9%	0.9%

未回収数の内訳

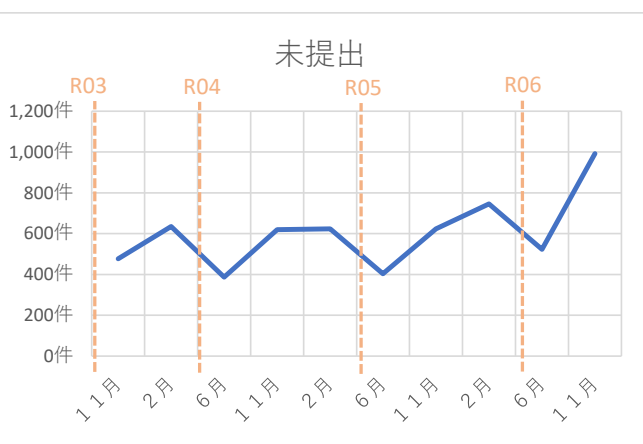
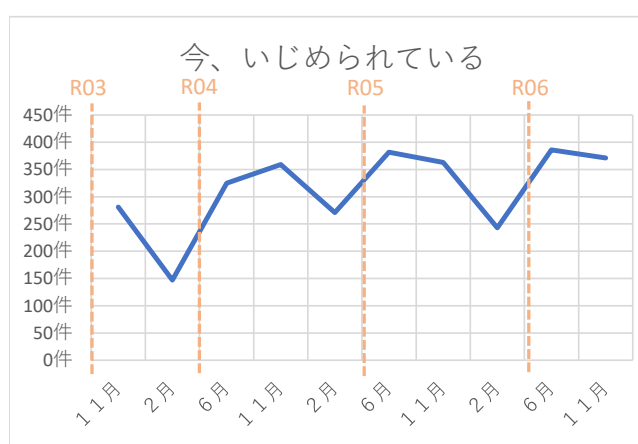
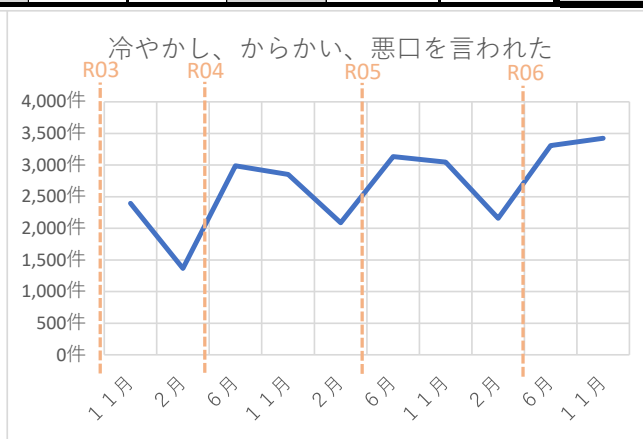
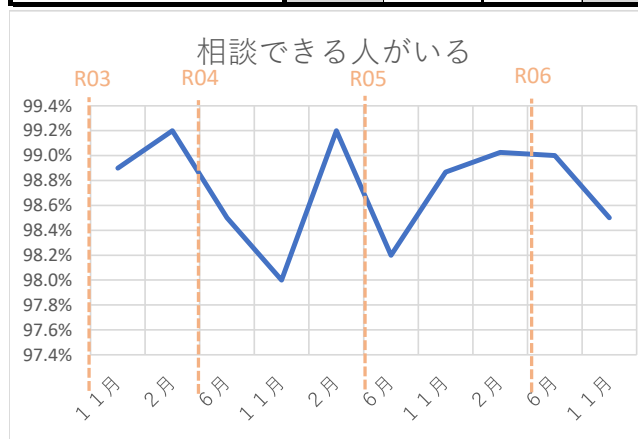
	小学校			中学校			合計		
	R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11
全員回収	9	9	9	0	1	2	9	10	11
1 名	9	11	14	1	5	0	10	16	14
2 名	15	10	6	2	3	1	17	13	7
5 名以内	15	23	21	9	7	4	24	30	25
1 0 名以内	16	11	14	9	10	3	25	21	17
1 1 名以上	3	3	3	14	9	25	17	12	28
合計	67	67	67	35	35	35	102	102	102

未回収となった主な理由

	小学校			中学校			合計		
	R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11	R5.11	R6.6	R6.11
学籍のみ	14	25	24	15	14	21	29	39	45
実施期間中に居住地以外に在住	18	20	15	6	4	5	24	24	20
児童相談所等との連携	12	15	9	16	12	14	28	27	23
不登校であり、回収に至らなかった	177	146	197	293	230	554	470	376	751
本人・保護者の判断	7	11	4	19	14	80	26	25	84
病気（入院中も含む）	12	8	13	19	9	27	31	17	40
日本語による読解が困難な状況	13	10	15	2	5	14	15	15	29
合計	253	235	277	370	288	715	623	523	992

令和6年度 第2回学校生活及びいじめに関するアンケート調査結果【抜粋（年度中の変化）】

<経年>	令和3年度		令和4年度			令和5年度			令和6年度	
	11月	2月	6月	11月	2月	6月	11月	2月	6月	11月
相談できる人がある	98.9%	99.2%	98.5%	98.0%	99.2%	98.2%	98.9%	99.0%	99.0%	98.5%
冷やかし、からかい、悪口を言われた	2,395件	1,366件	2,989件	2,851件	2,087件	3,135件	3,045件	2,159件	3,307件	3,424件
今、いじめられている	281件	147件	325件	359件	271件	382件	363件	243件	386件	371件
未提出	477件	635件	387件	620件	624件	404件	623件	746件	523件	992件



文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	第7回足立区「図書館を使った調べる学習コンクール」について						
所管部課名	教育指導部教育指導課						
内 容	第7回足立区「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募状況及び審査結果について、以下のとおり概要を報告する。						
	1 応募状況及び審査結果						
	(1) 応募校数 ※ () は昨年度						
	<table><tr><th>小学校</th><th>中学校</th><th>合計</th></tr><tr><td>66 (67)</td><td>32 (29)</td><td>98 (96)</td></tr></table>	小学校	中学校	合計	66 (67)	32 (29)	98 (96)
	小学校	中学校	合計				
66 (67)	32 (29)	98 (96)					
(2) 応募数及び全国審査への出品数について ※ () は昨年度							

作品数	応募総数				
	小学校			中学校	合計
	低学年	中学年	高学年		
応募総数	1,376 (1,216)	3,333 (3,065)	4,721 (4,638)	2,838 (2,691)	12,268 (11,610)
足立区入選 ※全国審査に出品	21 (20)	50 (45)	71 (70)	42 (40)	184 (175)

※全国審査出品数は、応募総数の1.5%

(3) 足立区特別賞について																
全国審査に出品する184点から、小学校（低、中、高学年）3部門、中学校1部門の計4部門において審査員10名が1作品ずつ足立区特別賞40作品を選出した。受賞者数は以下のとおり。																
<table><tr><th>賞の種類</th><th>受賞者数</th></tr><tr><td>区長賞</td><td>4</td></tr><tr><td>教育長賞</td><td>4</td></tr><tr><td>教育委員賞（4名）</td><td>16</td></tr><tr><td>学校図書館部担当校長賞（2名）</td><td>8</td></tr><tr><td>図書館長賞</td><td>4</td></tr><tr><td>教育指導課長賞</td><td>4</td></tr><tr><td>合計</td><td>40</td></tr></table>	賞の種類	受賞者数	区長賞	4	教育長賞	4	教育委員賞（4名）	16	学校図書館部担当校長賞（2名）	8	図書館長賞	4	教育指導課長賞	4	合計	40
賞の種類	受賞者数															
区長賞	4															
教育長賞	4															
教育委員賞（4名）	16															
学校図書館部担当校長賞（2名）	8															
図書館長賞	4															
教育指導課長賞	4															
合計	40															

2 コンクールの成果

- (1) 図書館の利活用や調べる学習コンクールにおける今年度の傾向
ア 夏季期間中（7月1日から8月31日まで）において、足立区立図書館におけるレファレンス（調べもの相談）サービスが昨年度に比べて増加した。

足立区立図書館における小中学生のレファレンスサービスの利用者数と貸し出し冊数

	令和5年度	令和6年度
利用者数	306人	389人
貸し出し冊数	938冊	1,246冊

3 今後の方針

- (1) 全国審査における入選・入賞の結果については令和7年1月16日（木）に図書館振興財団ホームページにて公表される予定である。結果について、後日改めて報告する。
- (2) 優良作品は、足立区ホームページ上で2月末頃に公開する。
- (3) コンクール開催の通知を早めたことで、児童・生徒が授業においてテーマ決めや調べ学習に時間をかけて取り組むことができた。来年度も5月末に全小中学校に開催通知を発出する。
- (4) 来年度以降も、引き続き教育政策課と連携し、学校図書館の利活用についての事業の推進を図り、児童・生徒の図書館を使って調べる力の育成を図る。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件 名	令和7年度特別支援学級の応募結果及び増学級等について					
所管部課名	こども支援センターげんき支援管理課					
内 容	令和7年度特別支援学級の応募結果を報告する。 また、応募多数により定員を超えている特別支援学級については、学校と調整した結果、小学校6校・中学校1校において増学級を実施。さらに、増学級により初就児童（小学1年生）を多く受け入れる小学校の負担を軽減するため、「学習支援員」を新たに配置する。 1 特別支援学級の応募結果及び増学級 (1) 小学校の状況					
	地区	学校名	当初受入数	増学級	確定受入数	応募数
	千住	千寿桜	9人(3)	—	9人(3)	2人
		千寿常東	3人(2)	8人(1)	11人(3)	6人
	北西	古千谷	4人(2)	8人(1)	12人(3)	6人
		鹿浜一	2人(4)	—	2人(4)	3人 ○
		西伊興	5人(4)	—	5人(4)	10人 ○
		渕 江	2人(3)	8人(1)	10人(4)	5人
	北東	桜 花	3人(2)	8人(1)	11人(3)	5人
		辰 沼	4人(2)	—	4人(2)	3人
		花 畑	3人(3)	—	3人(3)	1人
		平 野	2人(3)	—	2人(3)	4人 ○
		六 木	5人(2)	—	5人(2)	4人
	南西	梅島二	9人(2)	—	9人(2)	5人
		江 北	3人(3)	8人(1)	11人(4)	5人
		関 原	2人(2)	8人(1)	10人(3)	5人
		本 木	6人(3)	—	6人(3)	2人
	南東	青 井	6人(2)	—	6人(2)	1人
		足 立	4人(3)	—	4人(3)	3人
		東渕江	10人(4)	—	10人(4)	8人
	新田	新 田	3人(2)	—	3人(2)	0人
		宮 城	4人(1)	—	4人(1)	1人
		合 計	89人(52)	48人(6)	137人(58)	79人
	※ () は学級数					
	※ は抽選校					

※ 抽選については、12/14に実施済。抽選により希望に添えなかった方については、空きのある近隣校で対応

(2) 中学校の状況

地区	学校名	当初受入数	増学級	確定受入数	応募数	抽選
千住	第一	7人(2)	—	7人(2)	4人	
北西	伊興	7人(3)	—	7人(3)	7人	
	鹿浜菜の花	9人(4)	—	9人(4)	8人	
北東	第十三	9人(4)	—	9人(4)	6人	
	花畑	9人(3)	—	9人(3)	4人	
南西	第六	11人(3)	—	11人(3)	2人	
	第七	9人(4)	—	9人(4)	7人	
南東	栗島	13人(4)	—	13人(4)	8人	
	東綾瀬	14人(4)	—	14人(4)	10人	
新田	新田	4人(1)	8人(1)	12人(2)	5人	
	合計	92人(32)	8人(1)	100人(33)	61人	

※ () は学級数

※ 中学校は抽選なく、希望どおり

2 増学級小学校6校へ「学習支援員」を新たに一人配置

(1) 増学級を検討する中で、小学校校長から以下の意見があった。

ア 特別支援学級の児童増は、学校全体に負担。

イ この時期の増学級による教員配置は、新規採用者が配置される可能性が高い。

ウ 学級増でも教育水準を維持するために、学習を指導できる人材が欲しい。

(2) 学習支援員配置による効果

ア 人員増による学校負担の軽減

イ 学習支援員は、子どもとの関わりの適性と一定の事務能力があるため、校内の指導力を維持することができる。

ウ スクールアシスタント(SA)と異なり、学習指導の補助を行うことができる。

3 令和8年度の対応

今回応募多数で抽選となった小学校については、施設上増学級が困難であり、かつ、近隣の特別支援学級のある学校も増学級が困難な状況である。今後については、特別支援学級の需要予測を立てたうえで、新設について検討していく。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	チャレンジ学級・あすステップのオンライン配信授業の終了について										
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課										
内容	標記の件について、課題等を整理し検討した結果、学校でオンライン授業配信の環境が整っていること、各教室での対面授業の方が子どもたちに寄り添った指導ができることから、令和6年度末をもって終了する。 1 オンライン配信授業の現状と課題 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>現状と課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童・生徒</td><td> ① 学習に遅れのある児童・生徒が多い。 ② 多学年が混在し習熟度やレベル差が大きい。 ③ 対面での授業や個別指導を望んでいる（オンライン授業時は帰宅してしまう生徒もいる）。 ④ 配信をしていない教室ではテレビを見ているだけとなる。 </td></tr> <tr> <td>指導員</td><td> ① 他教室の生徒の反応がつかめない。 ② 生徒の理解度を把握しながら授業の展開を変えていくことができない。 ③ 全ての指導員が会計年度任用職員のため、配信授業用の資料準備時間が確保できない。 ④ 児童・生徒に寄り添う時間が取れなくなっている。 </td></tr> <tr> <td>機材・操作</td><td> ① 現在はパソコンのカメラで写し、マイクもない状況。機器が古く動画が固まることもある。今後オンライン配信を充実させるには、ハード面（カメラ・マイク等）の充実も必要である。 ② オンライン専門のサポートスタッフが必要。現在は、別の指導員がサポートしているが、そのため本来の業務である児童・生徒への寄り添い支援ができていない。 </td></tr> <tr> <td>その他</td><td> 配信授業で使用する教材のチェックをする時間を十分確保できない。 ● 市販ドリルのアップロードや有料のイラストを使用していないかなど、著作権法に関するチェックに時間を要する。 ● 授業内容が教科書の内容に沿っているかなどのチェックも必要。 </td></tr> </tbody> </table> 2 これまでの経緯 (1) 令和3年度から、学習意欲のある不登校の児童・生徒を対象に、学校に先行してチャレンジ学級からオンラインでの授業配信をモデル的に実施。 (2) コロナ禍で学校からのオンライン授業配信が急速に普及し、現在は全校で授業配信の環境が整っている。		現状と課題	児童・生徒	① 学習に遅れのある児童・生徒が多い。 ② 多学年が混在し習熟度やレベル差が大きい。 ③ 対面での授業や個別指導を望んでいる（オンライン授業時は帰宅してしまう生徒もいる）。 ④ 配信をしていない教室ではテレビを見ているだけとなる。	指導員	① 他教室の生徒の反応がつかめない。 ② 生徒の理解度を把握しながら授業の展開を変えていくことができない。 ③ 全ての指導員が会計年度任用職員のため、配信授業用の資料準備時間が確保できない。 ④ 児童・生徒に寄り添う時間が取れなくなっている。	機材・操作	① 現在はパソコンのカメラで写し、マイクもない状況。機器が古く動画が固まることもある。今後オンライン配信を充実させるには、ハード面（カメラ・マイク等）の充実も必要である。 ② オンライン専門のサポートスタッフが必要。現在は、別の指導員がサポートしているが、そのため本来の業務である児童・生徒への寄り添い支援ができていない。	その他	配信授業で使用する教材のチェックをする時間を十分確保できない。 ● 市販ドリルのアップロードや有料のイラストを使用していないかなど、著作権法に関するチェックに時間を要する。 ● 授業内容が教科書の内容に沿っているかなどのチェックも必要。
	現状と課題										
児童・生徒	① 学習に遅れのある児童・生徒が多い。 ② 多学年が混在し習熟度やレベル差が大きい。 ③ 対面での授業や個別指導を望んでいる（オンライン授業時は帰宅してしまう生徒もいる）。 ④ 配信をしていない教室ではテレビを見ているだけとなる。										
指導員	① 他教室の生徒の反応がつかめない。 ② 生徒の理解度を把握しながら授業の展開を変えていくことができない。 ③ 全ての指導員が会計年度任用職員のため、配信授業用の資料準備時間が確保できない。 ④ 児童・生徒に寄り添う時間が取れなくなっている。										
機材・操作	① 現在はパソコンのカメラで写し、マイクもない状況。機器が古く動画が固まることもある。今後オンライン配信を充実させるには、ハード面（カメラ・マイク等）の充実も必要である。 ② オンライン専門のサポートスタッフが必要。現在は、別の指導員がサポートしているが、そのため本来の業務である児童・生徒への寄り添い支援ができていない。										
その他	配信授業で使用する教材のチェックをする時間を十分確保できない。 ● 市販ドリルのアップロードや有料のイラストを使用していないかなど、著作権法に関するチェックに時間を要する。 ● 授業内容が教科書の内容に沿っているかなどのチェックも必要。										

3 オンライン配信授業の実施状況

	R3	R4	R5	R6
配信 (チャレンジ・あすテップ指導員による授業を配信)	スタート 教室の授業の様子や板書を配信	スライドや動画の取り入れ。他教室への呼びかけの様子や板書を配信		時間割に組み入れ週4時間実施 ・国語(隔週) ・理科(週1) ・社会(週1) ・英語(隔週) ・ICT(隔週)
受信 (チャレンジ・あすテップ各教室からの参加)	スタート	モニターTVを見ながらの集合参加 中学生対象(小学生の参加もあり) 参加していない教室もある <実績> 5教室合計 各回20~25人程度		
受信 (自宅からの参加)			チャレンジ・あすテップ生を対象に、試行実施 <実績> R5.7月 2人 R6.2月 2人 R6.3月 1人	チャレンジ・あすテップ生に限らず、自宅からの参加を本格実施 <実績> 0人 (R6.12.6現在)

4 今後の方針

- (1) チャレンジ学級・あすテップでのオンライン配信授業は、令和6年度末で終了し、教室ごとに児童・生徒に寄り添った対面授業のみとする。
- (2) 通級に踏み出せない児童・生徒への支援策として、「東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム」や「家庭学習支援事業」などを案内していく。
- (3) 全ての学校がオンライン授業を希望する児童・生徒、保護者の意向に沿って実施できるよう、あらためて校長会で周知する。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件 名	フリースクール等実態調査の結果について					
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課					
内 容	足立区内で活動しているフリースクール等について、実態調査を行った結果を報告する。					
	1 訪問結果の概要（令和6年10月1日現在）					
	インターネット等で確認したフリースクール等と想定される17団体のうち、6団体を現地訪問、1団体とオンライン面談を行った。					
	その結果、以下の5団体が不登校支援を主たる目的として、活動していることがわかった。					
	※ 他10団体は、辞退や訪問依頼に対する返答が得られなかった。					
		名称 (区内在住利用者数)	場所 開所日	運営主体	月謝	特徴
	1	東京未来大学 みらいフリースクール (計44人)	綾瀬 平日	学校法人 三幸学園	登校支援 ¥62,000 スタンダードコース 発達支援 ¥72,000 スタンダードコース	社会性を身につけることを重視
	2	トライ式高等 学院中等部 北千住キャンパス (6人)	北千住 平日	株式会社 トライ グループ	¥47,300	高等部と連携したサークル活動などに加え、学習支援に強み
3	フリースクール& あだちファミリー スペース Every Tree (4人)	梅田 週2日	個人	¥20,000	小規模、当日の活動決めなどで主体性を重視	
4	学び舎 (8人)	北千住 月2日	個人	無料	地域貢献活動を行い、自己肯定感を重視	
5	リエゾン・アダチ (現在利用者なし)	関原 随時	NPO 法人 LILA 子どもの学びを支援する会	無料	登校サポーターなどが個別に勧誘、教室復帰を目指す	

2 見えてきた課題

(1) 上記5団体共通の課題認識

ア 保護者へのケアの必要性

保護者の心理面への配慮が必要。不登校であることへの受容、進路、将来の自立に関することなど、多くの悩みを一人で抱えている保護者が多い。各団体で保護者会等を実施しているケースもあり、好評である。

イ 教員の多忙感、学校の対応

担任（学校全体含む）に、不登校児童・生徒のために割ける時間・余裕がない。

(2) 一部団体の課題認識

ア 家庭環境、家庭の経済状況

① ひとり親家庭が一定数存在している。

② 苦慮して月謝を捻出している家庭や、月謝を祖父母に頼っている家庭、生活保護受給家庭も在籍している。

イ 発達障がいの有無

発達障がいの不登校の要因となっている児童・生徒もいる。

ウ 情報公開の必要性

不登校児童・生徒がどのような施設を利用できるのかなど、保護者は必要な情報を得るまでに苦労している。

3 フリースクール等から受けた提案

(1) SCなどが充実してきているが、登校可能な児童・生徒が前提となっている。家庭訪問などによる支援の一層の充実が必要。

(2) 個人情報などの課題はあるが、保護者との仲介役や、学校での対応が難しい児童・生徒を紹介してもらうなど、ある程度フリースクールに任せてもらえる仕組みができれば、学校の負担も減るのではないか。

(3) 特に中学校では、定期テストをフリースクールで受けられる仕組みができると、受験時に必要な内申点や調査書に役立てることができる。

4 今後の取組

(1) 都利用者助成金の上乗せ助成の検討

ア 現状

都の基準を満たすフリースクール等の利用者に対して、都が利用料の一部を助成（上限2万円）している。

※ 上記5団体のうち、有料の3団体全てにおいて本助成金の利用者が在籍。

イ 他区の状況

葛飾区、北区、荒川区でフリースクール等の利用者に対する助成を実施している。

区	状況	補助要件	補助額	開始時期
北区	実施中	都に上乗せ	1万円/月	R6.4まで 遡及適応
荒川区	実施中	都に上乗せ + 区独自基準	2万円/月	
葛飾区	実施中	都に上乗せ	1万円/月	R6.11

ウ 利用者助成の実施

利用者の家庭環境や近隣区の状況を踏まえ、都から助成を受けている利用者に対し、令和7年度から上乗せ方式での助成を検討する。

(2) フリースクールマップ等の作成

懸念点：通っていることを知られたくない、という利用者の不安や、公開はしない方針の施設も一部実在している。

⇒問合せがあった際のみ配付することで対応していく。

(3) フリースクール等との連絡会の実施

団体間の連携や情報共有、区との協働を希望する団体が多数であった。3月開催予定の若年者支援協議会（不登校支援連絡会）において、情報交換の場を設定する。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	オンライン支援事業「room-K」の事業効果について																					
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課																					
内容	NPO法人カタリバが実施している不登校の子どもへのオンライン支援事業「room-k」の効果について、以下のとおり報告する。 1 概要 リモートで活動する全国の支援者と様々なデジタルツールの活用、学校・行政・支援者との連携により、不登校の小中学生に対し、仮想空間（メタバース空間）でオンラインによる質の高い伴走支援と学びの場づくりを実現する。 2 対象・支援の位置づけ 登校できない 外出できる 学習支援が中心 コミュニケーション活動が中心 対面による個別支援 オンラインによる個別支援 支援の困難性 不登校児童・生徒への支援 ①【学校外】チャレンジ学級 学校以外での個別指導中心とした学習指導・各種行事・集団活動(3ヶ所) ②【学校内】あすデッブ 不登校生徒に対する、学校内における通級型学習指導(区立中学校内2ヶ所) ③NPO運営の居場所 民間団体と連携した「居場所を兼ねた学習支援」(4ヶ所) ④家庭学習支援事業 不登校が長期化している家庭を支援員が訪問(アウトリーチ支援) ⑤NPOによるオンライン支援事業「room-K」 不登校が長期化している児童生徒に対する、オンラインによる伴走支援 オンラインクラス 東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム事業 room-k 3 東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）との違い <table><thead><tr><th></th><th>VLP</th><th>room-k</th></tr></thead><tbody><tr><td>対象</td><td>外出はできるが通級が不定期的な生徒</td><td>不登校が長期化し他者とのつながりがない生徒</td></tr><tr><td>定員</td><td>30～40人（現在5人）</td><td>4人（中2：3人、中3：1人）</td></tr><tr><td>費用</td><td>無料</td><td>R6は2,255千円</td></tr><tr><td>運営</td><td>都のシステムを足立区が運営</td><td>NPO法人カタリバ</td></tr><tr><td>効果</td><td>8月から事業開始につき効果検証未実施</td><td>他者との交流など、一定程度の効果あり</td></tr><tr><td>他区</td><td>都内30自治体等が参加</td><td>全国で5自治体（うち関東で4自治体）、約150人</td></tr></tbody></table>		VLP	room-k	対象	外出はできるが通級が不定期的な生徒	不登校が長期化し他者とのつながりがない生徒	定員	30～40人（現在5人）	4人（中2：3人、中3：1人）	費用	無料	R6は2,255千円	運営	都のシステムを足立区が運営	NPO法人カタリバ	効果	8月から事業開始につき効果検証未実施	他者との交流など、一定程度の効果あり	他区	都内30自治体等が参加	全国で5自治体（うち関東で4自治体）、約150人
		VLP	room-k																			
	対象	外出はできるが通級が不定期的な生徒	不登校が長期化し他者とのつながりがない生徒																			
定員	30～40人（現在5人）	4人（中2：3人、中3：1人）																				
費用	無料	R6は2,255千円																				
運営	都のシステムを足立区が運営	NPO法人カタリバ																				
効果	8月から事業開始につき効果検証未実施	他者との交流など、一定程度の効果あり																				
他区	都内30自治体等が参加	全国で5自治体（うち関東で4自治体）、約150人																				

4 支援生徒の状況（room-k）

事業開始前と比較すると、各種プログラムへの積極的な参加や他者との交流が見られるようになった。

学年	開始前の状況	現在の支援状況
中学3年生	月1～2回のげんきでの面談と別室登校を開始後、給食時に登校が可能となる。	各種プログラムに積極的に参加し、他の生徒とも親しくなり、スタッフとも対面で交流。進学先を検討中で、今後受験に向けた伴走支援を行っていく。
中学2年生	母と一緒に放課後登校をしていたが、次第に登校しなくなり家庭訪問でも会えず。外出不可。質問に「はい、いいえ」でしか答えられない。	質問には文章で答えられるようになり、グーグルスライドを使った自己紹介や作成したチラシを皆の前で発表できるようになった。
中学2年生	学校の相談室・保健室・別室等に不定期に登校。家族以外の人との関わりはほとんどない。選択肢の質問しか答えられない。	選択肢での回答から、自分でチャットを打てるようになり、反応もバリエーション豊かになった。オンライン上でカレンダーを作成した。
中学2年生	登校も外出もほとんどできない。担任から家庭訪問やオンラインの提案をするもどれも繋がらない。母の同席が無いと参加できない。	カタリバスタッフとも公式LINEで雑談ができるようになり、ひとりで面談に参加できた。オンライン上で出席スタンプカードを作成して出席を促している。

5 今後の方針

- （1）対象者は、外出も不可能な生徒で支援が困難であるが、本事業を利用することによって少しずつ改善傾向がうかがえるため、現在利用している生徒が中学卒業時まで支援を継続する。
- （2）令和8年度以降は、令和7年度の事業効果の検証及びV L Pとのすみ分けを整理した上で、継続の可否を判断する。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	「登校渋り」の把握について																																																				
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課																																																				
内容	「登校渋り」について、現状で把握できるものを報告する。 1 「登校渋り」について 国や都において、明確な言葉の定義はなく、分類が難しい。一方、不登校は、年間の欠席日数が30日以上であることより、欠席数から推定する「登校渋り」を年間の欠席日数が10日以上29日以内と定義する。 2 欠席日数から推定する「登校渋り」の人数 <table><tr><td></td><td>R4</td><td>R5</td><td>増減</td></tr><tr><td>小学校</td><td>30名</td><td>69名</td><td>+39</td></tr><tr><td>中学校</td><td>77名</td><td>66名</td><td>▲11</td></tr><tr><td>合計</td><td>107名</td><td>135名</td><td>+28</td></tr></table> 3 登校サポーターの支援利用人数 お迎え支援 <table><thead><tr><th>学校種別</th><th>支援種別</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">小学校</td><td>お迎え校数</td><td>18</td><td>23</td></tr><tr><td>利用人数</td><td>35</td><td>38</td></tr><tr><td rowspan="2">中学校</td><td>お迎え校数</td><td>14</td><td>9</td></tr><tr><td>利用人数</td><td>17</td><td>18</td></tr></tbody></table> 別室支援 <table><thead><tr><th>学校種別</th><th>支援種別</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">小学校</td><td>別室校数</td><td>12</td><td>14</td></tr><tr><td>利用人数</td><td>37</td><td>58</td></tr><tr><td rowspan="2">中学校</td><td>別室校数</td><td>22</td><td>31</td></tr><tr><td>利用人数</td><td>240</td><td>283</td></tr></tbody></table>		R4	R5	増減	小学校	30名	69名	+39	中学校	77名	66名	▲11	合計	107名	135名	+28	学校種別	支援種別	令和4年度	令和5年度	小学校	お迎え校数	18	23	利用人数	35	38	中学校	お迎え校数	14	9	利用人数	17	18	学校種別	支援種別	令和4年度	令和5年度	小学校	別室校数	12	14	利用人数	37	58	中学校	別室校数	22	31	利用人数	240	283
	R4	R5	増減																																																		
小学校	30名	69名	+39																																																		
中学校	77名	66名	▲11																																																		
合計	107名	135名	+28																																																		
学校種別	支援種別	令和4年度	令和5年度																																																		
小学校	お迎え校数	18	23																																																		
	利用人数	35	38																																																		
中学校	お迎え校数	14	9																																																		
	利用人数	17	18																																																		
学校種別	支援種別	令和4年度	令和5年度																																																		
小学校	別室校数	12	14																																																		
	利用人数	37	58																																																		
中学校	別室校数	22	31																																																		
	利用人数	240	283																																																		

4 登校サポーターの支援利用数からの分析

令和4年度から令和5年度にかけて、中学生の登校サポーターの支援利用者数が増加するとともに、「登校渋り」の数は減少していることから、一定の効果があったと考えられる。

5 今後の方針

(1) 登校サポーターの人材確保

登校サポーターによる一定の効果が見られることから、欠席日数が増え始めた児童・生徒と関係を保つことができるよう人材の確保に努める。

(2) 未然防止

多様な学びの場、居場所を確保する観点から、SSR事業など、未然防止の取組を行う。

(3) 実態把握

令和7年度に実施する不登校に関する調査で、実態を把握する。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	学校施設個別計画の今後の改訂方針について																														
所管部課名	学校運営部 学校施設管理課 施設営繕部 中部地区建設課																														
内容	令和３年３月に策定した「足立区学校施設の個別計画（足立区版長寿命型改修計画）」（以下「計画」という。）について、今後の改訂方針を以下のとおり報告する。 １ 現行の計画期間 （１）計画全体 令和３年度から１４年度まで（１２年間） （２）実施計画 令和３年度から１０年度まで（８年間） <table><tr><td rowspan="2">足立区公共施設等 総合管理計画</td><td colspan="2">H29～R6 年度 【８ 年】</td><td colspan="2">R7～R18 年度 【12 年】</td></tr><tr><td colspan="2">【旧】 40 年計画・第 1 期</td><td colspan="2">【新】 12 年計画・8 年毎見直し</td></tr><tr><td rowspan="3">足立区学校施設の 個別計画</td><td></td><td colspan="3">R3～14 年度 【12 年】</td></tr><tr><td></td><td colspan="3">計画期間【12 年間】</td></tr><tr><td></td><td colspan="3">実施計画 【8 年間】</td></tr><tr><td></td><td></td><td colspan="3">実施計画 【7 年間】</td></tr></table> 総合管理計画の 改訂を受けて見直し				足立区公共施設等 総合管理計画	H29～R6 年度 【８ 年】		R7～R18 年度 【12 年】		【旧】 40 年計画・第 1 期		【新】 12 年計画・8 年毎見直し		足立区学校施設の 個別計画		R3～14 年度 【12 年】				計画期間【12 年間】				実施計画 【8 年間】					実施計画 【7 年間】		
	足立区公共施設等 総合管理計画	H29～R6 年度 【８ 年】		R7～R18 年度 【12 年】																											
【旧】 40 年計画・第 1 期		【新】 12 年計画・8 年毎見直し																													
足立区学校施設の 個別計画		R3～14 年度 【12 年】																													
		計画期間【12 年間】																													
		実施計画 【8 年間】																													
		実施計画 【7 年間】																													
	２ 今後の改訂方針 （１）<u>上位計画の「足立区公共施設等総合管理計画」に従い、学校施設のさらなる長寿命化を図る。</u> （２）「建物があと何年程度、安全に使用できるか」を把握するため、<u>外部機関による「耐用年数評価」を実施</u>する。 （３）「耐用年数評価」の実施結果を受け、<u>改築・改修計画を定めた「実施計画」の見直し</u>を行う。 （４）国や都、他自治体の動向を注視し、学校の標準の規模や設備、暑さ対策の状況等の最新技術や知見を適宜計画に反映させる。																														

3 耐用年数評価について

(1) 目的

建物の状態を把握し適切な時期に修繕を行うことで、建物の寿命を延ばし、安全性を担保しながら予算の平準化をはかる。

(2) 評価方法

建物のRC構造物の一部を採取し、専門家によって劣化状況を詳しく調べ、その結果から、当該建物があと何年程度使用できるか有識者による耐用年数評価委員会が評価する。

(3) 評価対象校の選定

ア 現計画で定めた耐用年数「築後65年」に近い学校

イ 平成20年前半に大規模なリニューアル工事を行い、内外装や設備等を一新した学校

小学校	中川小 (H22)
中学校	第十四中【S39年築(築後60年)】 第四中 (H21)、第九中 (H22) 東島根中 (H25)、第十二中 (H25)

※ () 内はリニューアル工事を実施した年度

(4) 評価後の対応

耐用年数評価により、長期期間延長可能となった場合は、当面20年程度を目安に改築時期を延長する。

4 計画改訂の今後のスケジュール(予定)

時期	内容
令和7年 3月	「公共施設等総合管理計画」改訂
4月	「耐用年数評価」委託契約の締結
11月	「耐用年数評価」完了(評価対象6校)
12月	実施計画(案)作成
令和8年 1月	実施計画(案)案を報告(文教委員会)
4月	改訂した実施計画の公表

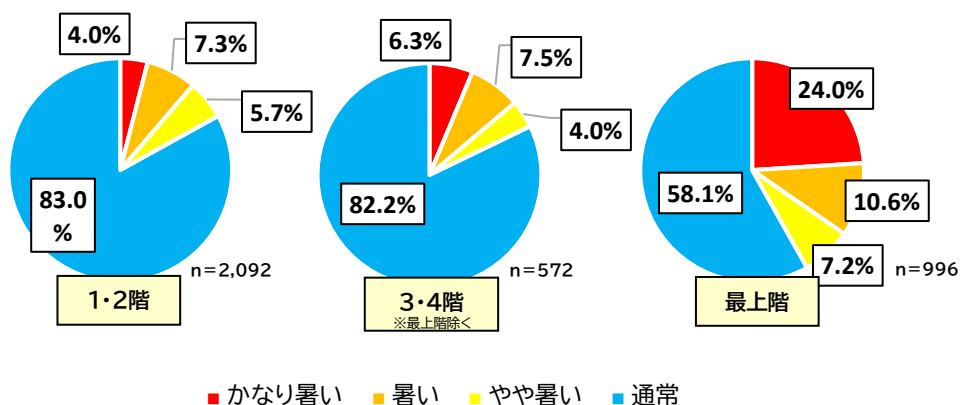
文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	暑さ対策アンケート結果の報告について										
所管部課名	学校運営部学校施設管理課										
内容	学校における暑さの現状を把握し今後の対策に活かすため、区内全小中学校を対象に実施したアンケート調査について、次のとおり結果を報告する。 1 調査概要 (1) 目的 ア 階や方位による校舎内の暑さの違い及び傾向を把握する。 イ 重点的に取り組むべき暑さ対策の手法や優先順位を検討する。 (2) 調査対象 区内全小中学校 (3) 調査期間 令和6年11月14日～同月25日 (4) 回答方法 令和6年5～10月の間に、エアコンを作動させた状態でも他の居室に比べて暑かった居室について、「やや暑い」「暑い」「かなり暑い」の中から一つ選ぶ。 2 調査結果 (1) 全体 対象居室全体の23.9%が「かなり暑い」「暑い」「やや暑い」のいずれかに該当する状況にある。 <table border="1"> <caption>調査結果の割合</caption> <thead> <tr> <th>暑さの程度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通常</td> <td>76.1%</td> </tr> <tr> <td>やや暑い</td> <td>5.8%</td> </tr> <tr> <td>暑い</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>かなり暑い</td> <td>9.8%</td> </tr> </tbody> </table> n=3,660(小・中学校の対象居室数) ■ かなり暑い ■ 暑い ■ やや暑い ■ 通常	暑さの程度	割合	通常	76.1%	やや暑い	5.8%	暑い	8.3%	かなり暑い	9.8%
暑さの程度	割合										
通常	76.1%										
やや暑い	5.8%										
暑い	8.3%										
かなり暑い	9.8%										

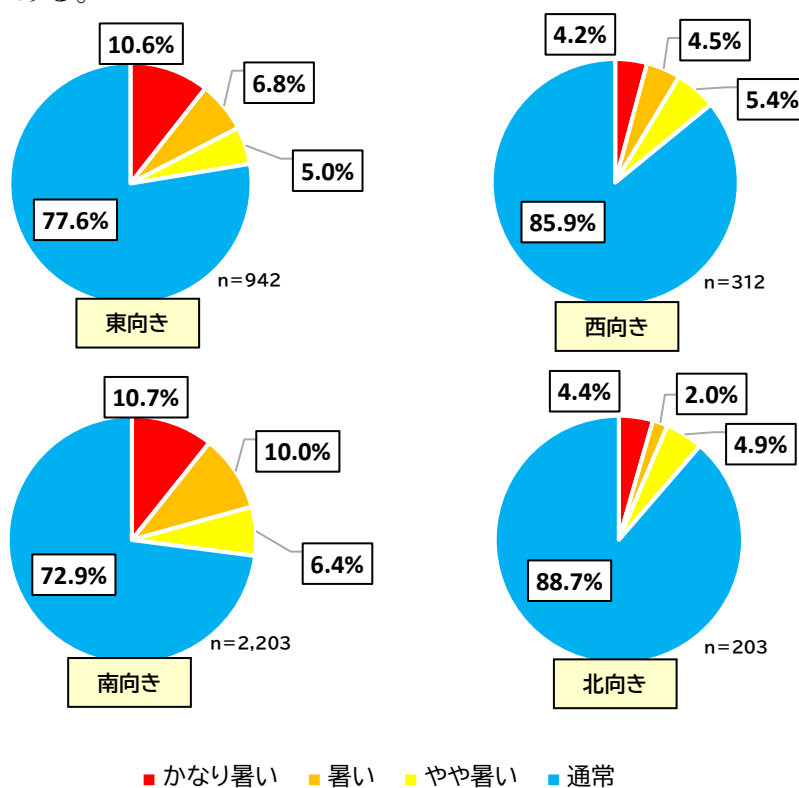
(2) 階別

最上階では、対象居室全体の41.8%で「かなり暑い」「暑い」「やや暑い」のいずれかに該当すると回答があり、下層階との差が顕著である。



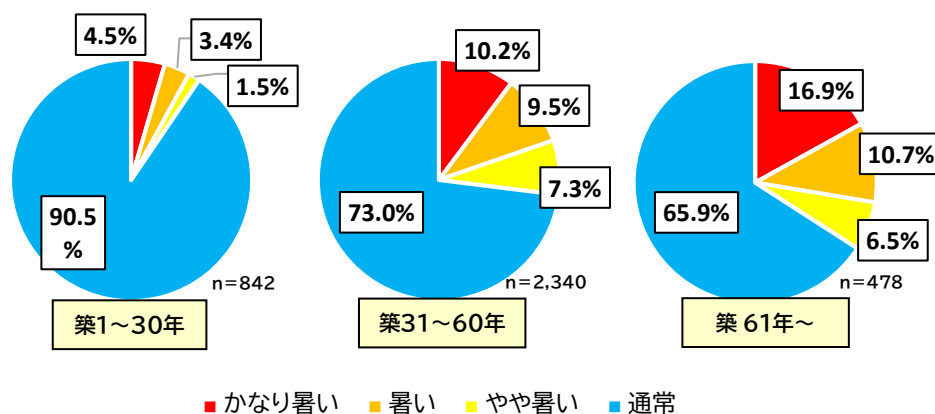
(3) 方位別

「南向き」と「東向き」居室が、他の方位に比べて「暑い」傾向にある。



(4) 築年別

築年が30年未満の校舎は、全体の90.5%の居室が「問題ない」との回答である一方、築年が61年以上の学校では居室の3割以上が「暑い」状況にあり、築年が古いほど暑い居室の割合が増す傾向である。



3 今後の方針

今回のアンケート集計結果により、特に暑さの傾向が顕著であった学校校舎の「最上階」と「東南向き」の教室等について、今後優先的に対処を行っていく。

(1) 断熱改修工事

校舎の屋上防水の改修工事を行う際などに、新たに断熱材を敷き込むなどの補修工事を実施し、屋上の断熱性のさらなる向上を図っていく。

(2) 遮熱スクリーンの試験設置

特に校舎最上階の東や南向きの教室等に、遮熱スクリーンを試験設置するなど、日射を遮る対策に取り組んでいく。

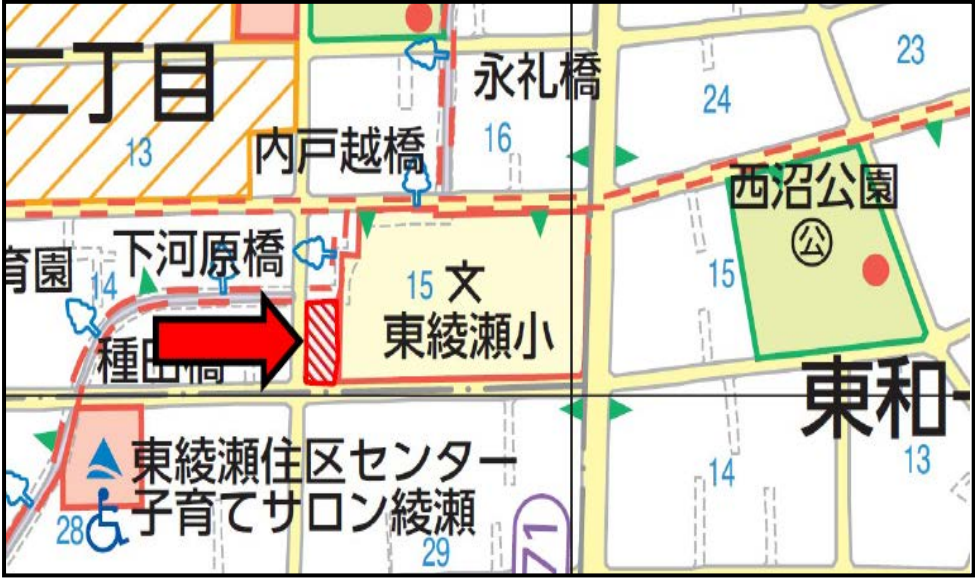
【今後の予定】

R 6 年度 1 ~ 3 月 遮熱スクリーンの試験設置

R 7 年度 6 ~ 1 0 月 室温の比較・分析等、効果検証

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件 名	東綾瀬小学校隣接用地の購入について						
所管部課名	学校運営部学校施設管理課						
内 容	現在、東綾瀬小学校の農園用地として区が無償で借用している以下の土地について、土地所有者より区へ売却の申入れがあり、購入について令和6年度第1回公有財産運用委員会に付議し承認を得たため、取得に向けて手続を進めていく。 なお、金額については財産価格審議会の答申に基づき決定するが、土地所有者に提示前のため非公表とする。 1 当該土地概要 <table border="1"> <tr> <td>所在地 (地番)</td><td>足立区東綾瀬二丁目15番19 (東綾瀬小学校西側)</td></tr> <tr> <td>地 目</td><td>雑種地</td></tr> <tr> <td>面 積</td><td>388㎡</td></tr> </table> 【位置図】  2 買入れ理由 (1) 土地所有者から当該土地を全て区へ売却し、引き続き東綾瀬小学校に使ってほしいと強い希望があったこと。 (2) 学校からも子どもたちの教育環境の充実のため、農園用地として継続して利用したいとの要望があること。	所在地 (地番)	足立区東綾瀬二丁目15番19 (東綾瀬小学校西側)	地 目	雑種地	面 積	388㎡
所在地 (地番)	足立区東綾瀬二丁目15番19 (東綾瀬小学校西側)						
地 目	雑種地						
面 積	388㎡						

3 これまでの経緯

時期	内容
昭和58年 4月	学校農園用地として所有者から無償で借用
平成28年12月	校舎の増築に伴い土地使用貸借契約（無償）を締結
令和 6年 3月	所有者から東綾瀬小学校長に相談あり 【相談内容】 ① 当該土地を処分したい ② できれば区に売却して、引き続き東綾瀬小学校に使ってほしい ③ 学校（区）が買い取る場合に必要な手続期間を教えてください 【区から所有者への回答】 ① 区が買い取る場合、庁内の審査等で最短でも1年程度かかる（所有者ご了承）
7月	当該土地の買入れによる取得について、「公有財産運用委員会」に付議・承認
11月	「財産価格審議会」に付議

4 利用状況

- （１）例年、勤労生産学習の一環として、生活科及び総合的な学習の時間の中で、学年ごとになす、ピーマン、じゃがいも、小松菜などを栽培している。
- （２）自然環境委員会の活動の一環として、花も育てている。

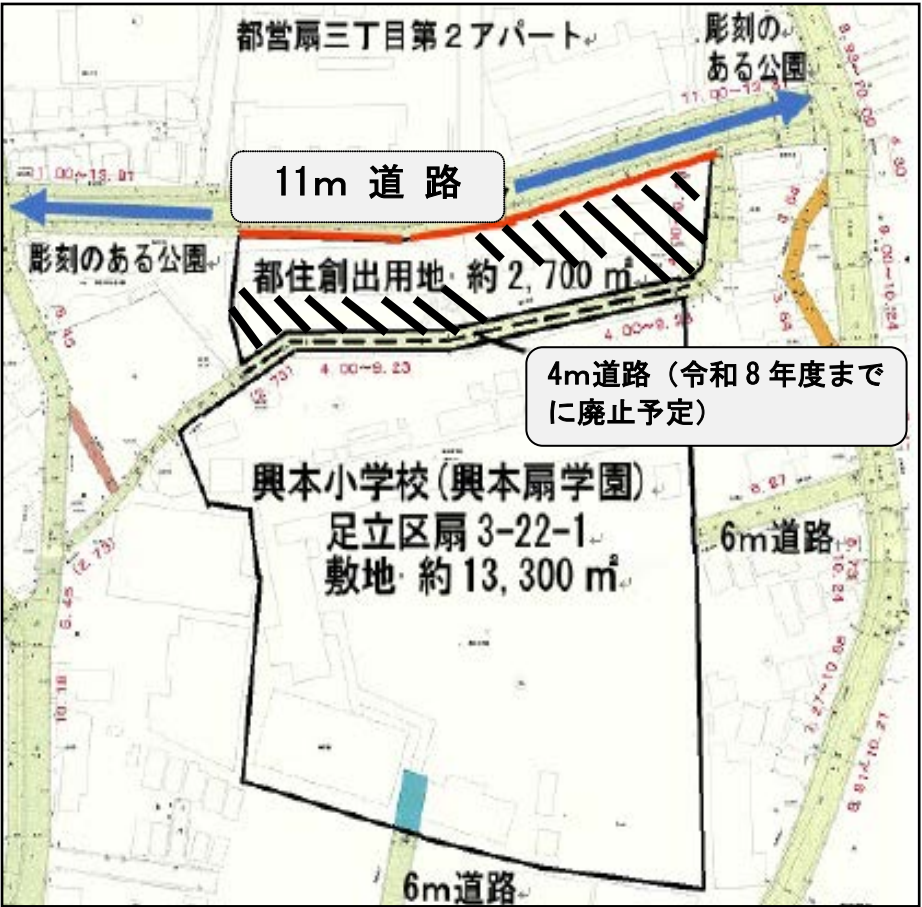


5 今後の方針

令和7年度中の取得に向けて、関係所管と連携し必要な手続を進めていく。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和7年1月21日

件 名	興本小学校隣接都住創出用地の購入について										
所管部課名	学校運営部学校施設管理課										
内 容	令和6年12月に東京都から興本小学校北側にある都住建替創出用地の価格提示があったことを受け、次のとおり令和7年度中の当該用地の取得に向けて手続を進める。 1 当該土地概要 (1) 所在地等 <table border="1"> <tr> <td>所在</td><td>足立区扇三丁目3484番3</td></tr> <tr> <td>地目</td><td>宅地</td></tr> <tr> <td>面積</td><td>2,733.1㎡</td></tr> <tr> <td>価格</td><td>630,000,000円</td></tr> <tr> <td>取得方法</td><td>区が直接購入</td></tr> </table> 	所在	足立区扇三丁目3484番3	地目	宅地	面積	2,733.1㎡	価格	630,000,000円	取得方法	区が直接購入
所在	足立区扇三丁目3484番3										
地目	宅地										
面積	2,733.1㎡										
価格	630,000,000円										
取得方法	区が直接購入										

(2) 購入理由

ア 現在の興本小学校敷地は、建築基準法上の接道要件不足や工事の車両搬入の困難さ等により、新たな校舎の建築ができない

イ 当該用地を購入後、興本小学校敷地との間を通る区道（4 m道路）を廃止し、現在の興本小学校敷地と一体とすることにより、北側の11 m道路と接道させ、建築を可能とする

2 今後のスケジュール（予定）

時期	内容
令和7年4月	当初予算計上
令和7年度	当該用地売買契約締結、購入
令和7年度～8年度	当該用地と興本小学校敷地の間を通る区道の廃止に向けた取組 ① 開かれ等地域への説明 ② 関係所管との情報共有 ③ 区道の廃止（令和8年度までに手続完了を目指す）
令和8年度～10年度	興本扇学園新校舎設計
令和11年度～13年度	興本扇学園新校舎建築
令和14年度	興本扇学園新校舎開校

3 今後の方針

新校舎の設計段階から、学校や地域住民等のご意見・要望を丁寧に伺いながら取り組んでいく。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	【追加】区内小学校体育館における床板剥離による負傷事故および対応経過報告について
所管部課名	<u>学校運営部</u> <u>学校施設管理課</u> 施設営繕部 中部地区建設課、東部地区建設課、西部地区建設課 地域のちから推進部 スポーツ振興課
内容	区内小学校の体育館で学校開放利用団体が活動中、団体に所属する児童の臀部に剥離した床板が刺さり負傷する事故が発生した件について、以下のとおり報告する。 1 事故概要 (1) 発生日時 令和6年12月26日 18時20分ごろ (2) 区への報告日 令和6年12月27日 (3) 事故現場 当該小学校の体育館 (4) 事故内容 当該体育館の床板が剥離して児童の臀部に刺さり、負傷した（臀部に刺さった床板は病院で摘出済み） (5) 剥離した床板のサイズ 長さ約7cm×幅約0.6cm（※最も幅広の箇所） (6) 床板剥離箇所  2 現場調査 (1) 調査日：令和6年12月27日・令和7年1月6日 (2) 当該事故発生箇所以外にも、床板のへこみ箇所数十か所を確認。 (3) 現時点では直ちに負傷に繋がるような剥離箇所は認められないものの、事故予防のため早急な修繕が必要であることを確認。

3 当該小学校における緊急対応

- (1) 学校の体育授業での体育館利用は当面禁止。
- (2) 学校開放利用団体の利用も当面禁止。
- (3) 式典や書き初め等は安全に配慮した実施を前提に利用可。
- (4) 体育館床全面の緊急修繕工事に向けた事業者相談（令和6年度内の工事完了を目指す）
- (5) 1月6日付けで事故概要や上記対応等について、学校長から保護者あてにメール連絡。

4 当該校以外の対応

(1) 学校による緊急点検【12月27日から1月7日まで】

点検箇所

- ア 体育館の床板に浮き上がりがあり、とくに端がささくれ立っている箇所
- イ 上記のささくれが剥がれそうになっている箇所

(2) 区職員による現地調査等【1月7日から1月17日まで】

- ア 点検の結果、1月7日までに報告のあった18校について、施設営繕部および学校運営部職員による現地調査を実施
- イ 応急処置として該当箇所にラインテープや養生テープ等を貼付
- ウ 部分または大規模修繕工事の必要性について検討

(3) 修繕実施【およそ1か月以内】

応急処置箇所について、業者による修繕を実施（学校長契約）

5 再発防止と今後の点検について

過去の同様の事故に基づく文部科学省の通知や消費者庁の報告等には、「複数の目で見ると」ことが事故の未然防止に有効とされていることから、以下のとおり複数の点検手法の複合的な実施を徹底していく。

- (1) 改めて学校および学校利用団体等に対し、学校体育館の利用上の注意事項（ワックス掛け・水拭きの禁止等）の周知・徹底。
- (2) 学校職員における日常的な安全点検実施の徹底。
- (3) 学校用務業務委託による清掃・点検の徹底。
- (4) 専門業者による定期的な点検の必要性も、今後検討していく。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	【追加】中川小学校における天井一部落下事故の対応経過報告について																																																					
所管部課名	学校運営部 学校施設管理課 施設営繕部 中部地区建設課、東部地区建設課、西部地区建設課																																																					
内 容	令和6年11月20日（水）に中川小学校で発生した教室の天井一部落下事故について、12月の文教委員会で報告した後の対応経過について、次のとおり報告する。																																																					
	1 対応経過について																																																					
	天井一部落下事故が発生した中川小学校および同様の施工（梁下への石膏ボンドによる石膏ボードの接着工法）が確認された7校の対応経過は、以下のとおり。																																																					
	なお、第四中学校については、点検の結果、同様の接着工法は確認されなかったため、対応完了済み。																																																					
	<table><tr><th>No</th><th>学校名</th><th>使用禁止</th><th>補修状況</th><th>今後の見通し</th></tr><tr><td>1</td><td>中川小</td><td>11/27 解除</td><td>・ボード撤去</td><td>撤去箇所補修</td></tr><tr><td>2</td><td>梅島小</td><td>12/2 解除</td><td>・ビス打ち補強</td><td>ビス打ち補強予定</td></tr><tr><td>3</td><td>千寿本町小</td><td>1/7 解除</td><td>・ビス打ち補強</td><td>（補修完了）</td></tr><tr><td>4</td><td>綾瀬小</td><td>12/2 解除</td><td>・Lアングル補強</td><td>一部箇所のボード撤去および補修予定</td></tr><tr><td>5</td><td>東綾瀬小</td><td>（なし）</td><td>・ビス打ち補強</td><td>（補修完了）</td></tr><tr><td>6</td><td>第一中</td><td>1/7 解除</td><td>・ビス打ち補強</td><td>調査時ボード撤去箇所の補修実施予定</td></tr><tr><td>7</td><td>第四中</td><td>11/28 解除</td><td>（該当接着工法なし）</td><td>（点検完了）</td></tr><tr><td>8</td><td>第十一中</td><td>（なし）</td><td>・アスベスト調査中</td><td>ビス打ち補強予定</td></tr><tr><td>9</td><td>第十二中</td><td>（なし）</td><td>・ボード撤去 ・撤去箇所補修</td><td>（補修完了）</td></tr></table>				No	学校名	使用禁止	補修状況	今後の見通し	1	中川小	11/27 解除	・ボード撤去	撤去箇所補修	2	梅島小	12/2 解除	・ビス打ち補強	ビス打ち補強予定	3	千寿本町小	1/7 解除	・ビス打ち補強	（補修完了）	4	綾瀬小	12/2 解除	・Lアングル補強	一部箇所のボード撤去および補修予定	5	東綾瀬小	（なし）	・ビス打ち補強	（補修完了）	6	第一中	1/7 解除	・ビス打ち補強	調査時ボード撤去箇所の補修実施予定	7	第四中	11/28 解除	（該当接着工法なし）	（点検完了）	8	第十一中	（なし）	・アスベスト調査中	ビス打ち補強予定	9	第十二中	（なし）	・ボード撤去 ・撤去箇所補修	（補修完了）
No	学校名	使用禁止	補修状況	今後の見通し																																																		
1	中川小	11/27 解除	・ボード撤去	撤去箇所補修																																																		
2	梅島小	12/2 解除	・ビス打ち補強	ビス打ち補強予定																																																		
3	千寿本町小	1/7 解除	・ビス打ち補強	（補修完了）																																																		
4	綾瀬小	12/2 解除	・Lアングル補強	一部箇所のボード撤去および補修予定																																																		
5	東綾瀬小	（なし）	・ビス打ち補強	（補修完了）																																																		
6	第一中	1/7 解除	・ビス打ち補強	調査時ボード撤去箇所の補修実施予定																																																		
7	第四中	11/28 解除	（該当接着工法なし）	（点検完了）																																																		
8	第十一中	（なし）	・アスベスト調査中	ビス打ち補強予定																																																		
9	第十二中	（なし）	・ボード撤去 ・撤去箇所補修	（補修完了）																																																		
	2 その他の学校への点検実施について																																																					
	中川小学校と同様のリニューアル工事実施校など、11月21日（木）から25日（月）までの緊急一斉点検の対象となった学校以外の残りの学校についても、万一の見落としを防ぐため、専門業者による天井安全点検を実施中である。																																																					

	(1) 点検契約期間 令和7年1月8日(水)から同年3月31日(月)まで (2) 点検内容 梁下天井部分の打診や点検口からの目視等による接着工法使用箇所の特 定 (3) 対象校 50校(施設営繕部職員による点検未実施校) 3 今後の予定 接着工法が確認された学校の補修工事と安全点検の実施結果について、引き続き文教委員会等を通じて報告していく。
--	---

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	新田学園外壁改修工事における騒音規制法の届出漏れについて
所管部課名	学校運営部 学校施設管理課 施設営繕部 西部地区建設課
内容	区が発注した外壁改修工事において、騒音規制法の届出が提出されていなかったことについて報告する。 1 概要 (1) 工事件名 新田学園第一校舎外壁改修その他工事 (2) 受注者 (株) 山陽工業 (3) 抵触法令 ア 騒音規制法第14条第1項に基づく届出 「特定建設作業※の実施の届出」 ※ 特定建設作業：ハンドブレーカーなど削岩機を使用する作業は作業開始7日前に届出 イ 騒音規制法第15条第1項に基づく特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準 「特定建設作業は日曜日その他の休日に行わないこと」 (4) 発見の端緒 「区民の声」に「日曜日に作業をしている」との通知が届き、業者にヒアリングしたところ、無届出かつ休日作業が発覚した。 2 作業状況 屋上の花壇（約70㎡）をコンクリートカッターで解体する設計となっていた。受注者は電気ハンマーを使用し、12月14日（土）で作業を終了する計画としていたが、翌15日（日）も作業を行った。受注者は、電気ハンマーが騒音規制法に定められる特定建設作業に該当するという認識がなかったため、届出を出さなかった。 3 問題点・今後の方針 設計と異なる工法を受注者が選定したことを報告していなかった。受注者に対しては、工事成績評定における減点を含め関係所管と協議を行い、適切な対応を行っていく。 なお、今後の工事契約については、受注者側の工事代理人と区の監督員が行う工事定例会議等において、作業内容が設計から変更となる場合には、受注者と届出の必要の有無も含め確認していく。

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	足立区給付型奨学金の採用候補者の決定について																					
所管部課名	学校運営部学務課																					
内容	足立区給付型奨学金（令和6年度募集）について、採用候補者を決定したため、以下のとおり報告する。 1 応募状況 （1）募集期間：令和6年6月21日（金）～7月19日（金） （2）応募件数：206件（前回 令和5年度募集：206件） 【内訳】 ① 通常申込（成績4.0以上） 153件 ② 特別申込（成績4.0未満だがテスト受験） 53件（文系27件、理系26件） 2 一次審査（所得+学修計画表）の結果 （1）対象者数：166名（応募者206名のうち、テスト不合格者35名、テスト欠席者2名、却下者3名を除く） 【内訳】 ① 通常申込者152名※ ※ 成績要件を満たさなかった1名を特別申込とした。 ② 特別申込者のうち、テスト受験の上位者14名※ ※ 49名がテストを受験。上位14名を一次審査進出者とした。 （2）一次審査の結果 <table><tr><th colspan="2">分類</th><th>人数</th></tr><tr><td colspan="2">一次審査通過（二次審査進出者）</td><td>47名</td></tr><tr><td rowspan="4">一次審査落選</td><td>合格ライン未達</td><td>108名</td></tr><tr><td>年収要件を満たしていない</td><td>8名</td></tr><tr><td>居住要件を満たしていない</td><td>1名</td></tr><tr><td>在学要件を満たしていない</td><td>1名</td></tr><tr><td>その他</td><td>本人より辞退の申し出</td><td>1名</td></tr><tr><td colspan="2">合計</td><td>166名</td></tr></table>	分類		人数	一次審査通過（二次審査進出者）		47名	一次審査落選	合格ライン未達	108名	年収要件を満たしていない	8名	居住要件を満たしていない	1名	在学要件を満たしていない	1名	その他	本人より辞退の申し出	1名	合計		166名
分類		人数																				
一次審査通過（二次審査進出者）		47名																				
一次審査落選	合格ライン未達	108名																				
	年収要件を満たしていない	8名																				
	居住要件を満たしていない	1名																				
	在学要件を満たしていない	1名																				
その他	本人より辞退の申し出	1名																				
合計		166名																				

	3 二次審査（面談）の結果 （１）対象者数 47名（対象者47名全員の面談を実施） （２）採用候補者数 47名 ※ 今年度からテストを実施（特別申込）したことで、昨年度までは対象外であった成績4.0未満の方の中から、7名を採用候補者とすることができた。 ※ 足立区育英資金審議会（12/11開催）にて審議のうえ、決定した。
--	---

文教委員会報告資料

令和7年1月21日

件名	保健関係書類のオンライン化について
所管部課名	学校運営部学務課
内容	保健関係書類のオンライン化について、令和6年度に試行実施した結果、令和7年度の全校実施が難しいことが判明したため報告する。 1 オンライン化の試行について 保護者が提出する保健関係書類について、校務支援システム（C4th）Home & School の各種調査票機能を活用したオンライン回答の試行実施を行った。 （1）実施時期 令和6年4月 （2）調査票の種類 結核検診問診票、運動器検診問診票 （3）パイロット校 小学校7校、中学校3校 計10校 2 主な課題 （1）回答に必要な説明画像等のファイル添付ができない。 （2）接続が集中する年度当初や朝の時間帯は、回答フォームへの接続及び回答に相当の時間を要する。 （3）未回答分については、別途管理が必要となったため、事務が煩雑となり、負担が増えた。 3 今後の方針 課題についてシステム事業者と協議を行ってきたが、改良の見込みが立たず、現状では保護者や学校の負担軽減とならないことが判明した。 当初予定していた令和7年度からの全校実施を延期し、他のシステムの活用等についても検討していく。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和 7 年 1 月 2 1 日

件名	【追加】放課後子ども教室参加児童の保険加入について															
所管部課名	学校運営部青少年課															
内 容	あだち放課後子ども教室（以下「放課後子ども教室」という。）における参加児童（以下「児童」という。）の保険加入について報告する。															
	1 現状と課題															
	（１）現状															
	自治体賠償責任保険は特別区で加入しており、安全管理員、児童ともに対象となる場合がある。															
	また、安全管理員・ボランティア（以下「安全管理員等」という。）は、傷害・賠償責任保険に加入しているが、児童は各家庭での加入を呼びかけるにとどまっている。															
	<table><tr><th>対象</th><th>自治体賠償責任保険</th><th>傷害保険</th><th>賠償責任保険</th><th>加入状況</th></tr><tr><td>安全管理員等</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>既加入</td></tr><tr><td>児童</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>－</td></tr></table>	対象	自治体賠償責任保険	傷害保険	賠償責任保険	加入状況	安全管理員等	○	○	○	既加入	児童	○	×	×	－
	対象	自治体賠償責任保険	傷害保険	賠償責任保険	加入状況											
	安全管理員等	○	○	○	既加入											
	児童	○	×	×	－											
	（２）課題															
放課後子ども教室利用中に児童が怪我をしたり、誤って物品を破損した場合、自費対応（※）となっている。																
※ 通院が５日を超えると見舞金が支給される。																
2 方針（案）																
不測の事故に備えるため、公費により児童も保険加入を行う。																
（１）加入保険（補償内容）																
<table><tr><th>対象</th><th>項目</th><th>傷害保険</th><th>賠償責任保険</th></tr><tr><td rowspan="4">児童</td><td>死亡</td><td>500 万円</td><td rowspan="4">対人・対物（共通） 1 事故・保険期間中 3 億円</td></tr><tr><td>後遺障害</td><td>500 万円</td></tr><tr><td>入院日額</td><td>4,500 円</td></tr><tr><td>通院日額</td><td>3,000 円</td></tr></table>	対象	項目	傷害保険	賠償責任保険	児童	死亡	500 万円	対人・対物（共通） 1 事故・保険期間中 3 億円	後遺障害	500 万円	入院日額	4,500 円	通院日額	3,000 円		
対象	項目	傷害保険	賠償責任保険													
児童	死亡	500 万円	対人・対物（共通） 1 事故・保険期間中 3 億円													
	後遺障害	500 万円														
	入院日額	4,500 円														
	通院日額	3,000 円														
（２）加入開始時期（予定）																
令和 7 年 2 月																
（３）保険料																
785,335 円（令和 7 年 2 月～3 月分）																
※ 保険料は、延べ参加人数で算出。																
（４）その他																
令和 7 年度からは、年度当初の 4 月から加入する。																